

生研 ニュース

IIS NEWS
No.210
2026.7

●機械・生体系部門
教授
大島 まり

今年度で退職を迎えられる大島まり教授は、1992年に東京大学大学院工学系研究科博士課程を修了し、同年に生産技術研究所助手として着任されて以来、30年以上にわたり生研で研究・教育に携わってこられました。大学院は原子力専攻で、核融合炉内の複雑な流体現象を研究され、その後、生研で乱流など流体工学の基礎研究に取り組むなかで、「流れ」を一貫した研究の軸として深めてこられました。

転機となったのは、スタンフォード大学滞在中に医療画像を用いた血流解析研究に出会ったことでした。帰国後は脳外科医との共同研究を通じて、脳動脈瘤と血流との関係に着目し、患者個別の血流シミュレーションの研究を開始されました。複雑な血管形状に対応しやすいように有限要素法など、問題に応じて解析手法を組み合わせ、あるいは新しい手法を開発して、脳血流の解析、破

裂リスク評価や治療方針の判断支援、さらには機械学習を組み合わせた予測医療へと発展させてきました。

大島教授が語る生研最大の魅力は、「分野融合的な新しい研究を面白いが気風」です。六本木時代には、異なる専門の研究者が日常的に交流し、その活気ある環境が研究の広がりを後押ししたといいます。そうした気風のなかで、研究だけでなく、次世代育成オフィスでの活動をはじめ、若い世代に科学技術の魅力を伝える取り組みにも尽力され、理工系分野におけるダイバーシティ推進にも大きく貢献されました。退職後も研究と教育を橋渡しする活動を続けたいと語られており、「恵まれた環境を最大限に生かし、社会に役立つ研究をしてほしい」という後進への言葉には、生研への大きな期待が込められています。

(広報室 巻 俊宏)

IIS
TODAY

CONTENTS

REPORTS

- 3 東大駒場リサーチキャンパス公開 2026 の開催
4 東大駒場リサーチキャンパス公開 2026 広報室企画報告
「願いと実りのイチョウ」および「AI が描く『もしかする未来』にあなたから一言！」
5 東大駒場リサーチキャンパス公開 2026 次世代育成オフィス (ONG) 活動報告
6 2026 年度 生研同窓会総会・パーティーを開催
7 野村 政宏 教授、コウ シン 特任准教授が文部科学大臣表彰 科学技術賞を受賞

March

- 8 文化×工学研究会報告
9 第 3 回 HPC 産業応用拡大プロジェクトシンポジウム 開催
10 LIMMS30 周年：フランスと日本の卓越した連携の軌跡
11 30 Years of LIMMS: A Legacy of France-Japan Excellence
12 第 33 回 生研フォーラム「地球観測とリスク評価を礎とした社会実装とワンヘルス・ワンワールドの共創」

April

- 13 第 15 回中海海底工学フォーラム・ZERO 開催

May

- 14 令和 8 年度第 1 回生研サロン開催報告
15 第 7 回 UT²-MAC (第 24 回 UT²) student workshop 開催報告
16 IIS Women+ Cafe を開催
17 ITS セミナー in 岡山

June

- 18 ハンガリー研究ネットワーク (HUN-REN) エネルギー研究センター所長御一行来訪
19 ダイニングラボ活動報告

PRESS RELEASE

March

- 20 東京大学とデンソー、産学協創協定の締結～走るほど、満ちる社会へ：モビリティから広がる未来の社会価値～
20 “呼吸する” 肺オルガノイド！？——ヒト肺オルガノイドで動的な呼吸の力学を再現——

April

- 20 2 週間の予測精度の壁に挑む——過去予測を選んで利用する中期気象予測手法「LEAS」を開発——
21 抗菌ペプチドの「ダブル協奏効果」の原理を解明
——薬剤耐性菌に対抗する次世代抗菌薬設計に一つの可能性——
21 降水・水蒸気・海水の同位体から水循環の履歴を読み解く気候モデル「MIROC6-iso」を開発
——一年々変動の再現性向上、観測データのない地域や時代の気候復元が可能に——
21 自然界には存在しない構造を持つ 2 次元酸化鉄の作製に成功～グラフェン / SiC 界面が生み出す新物質～

June

- 22 南海トラフ沿いの固着は時間的に「変化する場所」と「変化しない場所」がある
——プレート境界の固着状態の時空間変動を観測から把握——
22 昆虫の嗅覚を利用し、尿の“におい成分”を細胞で読み取る
～がん関連揮発性物質候補を検出するバイオハイブリッド型匂いセンサを開発～
22 日本のリアルタイム洪水予測の精度向上のための観測とシミュレーションの融合
23 水のぬれを支配する「線張力」の起源を解明——接触線での水分子構造の崩壊が符号反転を生む——

VISITS

PERSONNEL

AWARDS

SNAPSHOTS

INFORMATION

PLAZA

シュトゥットガルトで過ごした 3 ヶ月
(機械・生体系部門 横田 裕輔 研究室 博士課程 2 年 吉住 優懂)

FRONTIER

観ることからはじまるデザイン (機械・生体系部門 准教授 檜垣 万里子)

東大駒場リサーチキャンパス公開2026の開催

6月5日（金）・6日（土）の両日、東大駒場リサーチキャンパス公開 2026 が開催されました。昨年度に続き「ここで、未来に挑む」をキャッチコピーに掲げ、本所と本学 先端科学技術研究センター（先端研）の各研究室による研究室公開や講演会など、数多くのイベントが実施されました。

梅雨入り直前の晴れ間にも恵まれ、2日間で8,520人と前年よりも約900人程度多い来場者を迎え入れました。

公開初日には、本所と先端研との合同によるオープニングセレモニーが行われました。今年のテーマには「未来の学びをつくる STEAM 教育：創造性と科学技術が交差する現場から」を掲げ、両所長による挨拶に続き、本所 川越 至桜 教授が「未来をデザインする力を育む－STEAM教育の今とこれから－」、先端研 森 晶子 准教授が「多主体で共創する探究・STEAM

教育の可能性と発展に向けて」と題してそれぞれの研究活動にもとづく講演を行いました。このイベントはオンラインでも同時配信され、ユニバーシティ広場に設置された大型ビジョンでの上映を含めて多くの方に参加いただきました。

本公開では、本所だけでも112件の研究室・研究センター等による研究紹介・展示や25件のイベントが開催され、幅広い年代・職業の来場者で賑わいました。研究室等では個々の来場者の目線に合わせた説明が行われたことから来場者の積極的な質問も生まれ交流が広がりました。また、本所研究室と関係の深い企業との共同企画やブース出展も多く行われ、本所の多彩な産学連携活動について、大勢の来場者に触れていただく機会となりました。

（総務課広報チーム）



本所 年吉 洋 所長、
先端科学技術研究センター 杉山 正和 所長による開会挨拶

川越教授と森准教授による講演



地下アトリウムでの「生研×企業が共に描く未来のイノベーション—多様な企業と生研による共同研究の最前線」の様子



多くの来場者が正門から構内へ向かう様子



ユニバーシティ広場に設置した大型ビジョン



見学の様子



東大駒場リサーチキャンパス公開2026 広報室企画報告 「願いと実りのイチョウ」および「AIが描く『もしかする未来』にあなたから一言！」

6月5日（金）および6日（土）に開催された東大駒場リサーチキャンパス公開2026において、広報室では、「願いと実りのイチョウ」および「AIが描く『もしかする未来』にあなたから一言！」を企画し、C棟1階ピロティにて実施した。

「願いと実りのイチョウ」は、本所の各研究室が描く「もしかする未来」像を紹介し、各研究室への来訪誘致を目的とした企画である。本年度は、74研究室の「もしかする未来」像を印刷したカードを、本所武藤 宝 研究室が設計したイチョウの展開型オブジェに展示した。来場者にはカードを鑑賞していただくとともに、研究者にかなえてほしい未来像や願いをイチョウ型のメモ用紙に記載いただいた結果、合計206件の願いがオブジェを彩った。「副作用が少ない薬」「食べても太らないような体」など、健康・医療・ウェルビーイングに関する願いが最も多く、移動や生活を助けるロボット、平和や社会制度への願いも目立った。

新企画「AIが描く『もしかする未来』にあなたから一言！」は、2025年度に本所から配信されたプレスリリースの中から8つの研究成果を選び、生成AIを用いて仮想的な「2050年の暮らし」の一場面を描き、教員からのコメントを付して展示した。水素原子の量

子トンネル効果から自動運転レベル4の運行開始まで、多岐にわたる分野の成果より導かれた未来像に、多くの来場者が足を止め、じっくり読み込んでいた。また、展示をきっかけに同行者との対話が展開している様子が印象的であった。来場者からは合計44件のコメントが寄せられ、期待と懸念が拮抗していた。「役立ちそう」「面白そう」という前向きな反応の一方で、自動運転・AI・医療といった生活に入り込む技術ほど、安全性・管理主体・人間の主体性・データ利用・社会実装の現実性などへの懸念が現れた。本展示が「工学研究が将来の暮らしや社会とどのように関わりうるか」を考えていただくきっかけとなれば幸いである。

本企画には本所 石井 和之 教授、杉原 加織 准教授、中野 公彦 教授、野村 政宏 教授、福谷 克之 教授、松永 行子 教授、溝口 照康 教授、芳村 圭 教授に協力いただきました。その他、イチョウの展開型オブジェを制作いただきました武藤研究室の皆さま、本企画に協力いただきました皆さまに心から感謝を申し上げます。

（広報室 室長・准教授 松山 桃世、学術専門職員 楠井 美緒、学術専門職員 岡田 麻記子、特任専門職員 長島 美絵）



「願いと実りのイチョウ」に「願い」を吊るす来場者の様子



「AIが描く『もしかする未来』にあなたから一言！」に読み入る来場者の様子



多くの来場者が足を止め、展示に見入った

東大駒場リサーチキャンパス公開2026 次世代育成オフィス（ONG）活動報告

本所 次世代育成オフィス（ONG）は、6月5日（金）、6日（土）に開催された東大駒場リサーチキャンパス公開2026において、所内ボランティアグループであるSNG(Scientists for the Next Generation)と協同で、中学生・高校生のためのプログラム「未来の科学者のための駒場リサーチキャンパス公開」及び、連携企業・団体による体験型ブースの出展を行った。

「未来の科学者のための駒場リサーチキャンパス公開」では、全国から59校・約2,200名が参加し、2年連続で過去最高規模の参加人数となった。さらに、当日は個人や少人数グループでの参加も多くみられた。参加者は「見学おすすめマップ」を活用しながら自由にキャンパス内を見学し、体験型プログラムにも積極的に参加していた。

ONGとの連携企業・団体による体験型ブース「“STEAM”を体験してみよう」では、東京地下鉄株式会社（東京メトロ）、日本航空株式会社（JAL）、JX金属株式会社（JX金属）、一般社団法人日本トライボロジー学会の協力のもと、地下アトリウムにてブース展示を行った。小さな子どもから大人まで延べ3,200人が訪れ、終日賑わいを見せた。東京メトロブースでは、鉄道の運転士の業務や鉄道技術について学ぶとともに、紙製の車両に彩色したオリジナルの缶バッジを制作した。JALブースでは、オリジナルの折り紙飛行機を制作し、的をめがけて飛ばす体験が行われた。紙飛行機が的を通過するたびに大きな歓声があがり、飛行機の仕組みや空への関心を高める機会となった。JX金属ブースでは、「銅」の熱伝導の特性について、触って感じる化学実験を通じ、銅が日常生活で広

く使用されている理由への理解を深めるとともに、科学の面白さを実感する機会となった。日本トライボロジー学会ブースでは、摩擦について、布を敷くと滑りにくくなることや、模型を使って機械内部に生じる摩擦軽減の重要性などについて体験を通して学び、摩擦の役割を身近に感じる事ができた。

アンケート調査の結果、参加者からは「大学の皆さんが研究内容を分かりやすく丁寧に教えてくれ、最先端の科学技術について楽しく学ぶことができた。」「ここに来なければ気づかないような場面にも科学技術がたくさん使われていることを知り、とても有意義でよい経験になった。これからの生活の見方が大きく変わるといった。」「今後の進路選択や職業などを考える上で大いに参考になった。」等、多くの前向きな感想が寄せられた。また、参加生徒及び引率教員の約97%が「面白かった、非常に面白かった」と回答し、さらに約82%が「本イベントを通じて、以前より科学技術への関心が高まった」と答えていることから、参加者にとって学ぶことの楽しさや意義を実感できる非常に充実した機会となったことがうかがえる。

ONGでは、今後も未来の研究者たちが学びを一層深め、科学技術への理解と探究心を育みながら成長できるよう、次世代人材の育成に向けた教育プログラムのさらなる充実と発展に取り組む所存である。

最後に、ご協力いただいた各研究室の皆さま、連携企業・団体の皆さま、SNG関係者の皆さまに心より厚く感謝と御礼を申し上げます。

（次世代育成オフィス 室長・教授 川越 至桜、
学術専門職員 上田 史恵）



体験型ブース（東京メトロ）



体験型ブース（JAL）



体験型ブース（JX金属）



体験型ブース（日本トライボロジー学会）



自由見学（山崎 大 研究室）



自由見学（川勝 英樹 研究室）



自由見学（本間 裕大 研究室）



自由見学（桑野 玲子 研究室）

2026年度 生研同窓会総会・パーティーを開催

6月6日（土）、2026年度 生研同窓会総会を、本所 An 棟コンベンションホールで開催しました。鳴海 大翔 幹事（本所 講師）が司会を担当し、浦 環 副会長（本学 名誉教授）の開会挨拶に続き、野村 政宏 幹事長（本所 教授）から、魚本 健人 会長（本学 名誉教授）の任期満了に伴う退任並びに野城 智也 新会長（本学 名誉教授・東京都市大学長）の選任について、2025 年度事業報告、2026 年度活動計画の提案が、宮崎 敏朗 幹事（本所 事務部長）から、2025 年度収支報告、2026 年度予算案の説明がありました。議案は全て承認されました。つづいて、目黒 公郎 幹事（本所 教授）から、海外支部（インド・タイ）の活動に

関しての報告があり、本総会で会長を退かれる魚本会長の閉会挨拶で、総会は終了しました。

An 棟ホワイエでの記念撮影後、An 棟レストランアールで開催したパーティーは、総会に引き続き、鳴海幹事の司会により、野城新会長の挨拶、鈴木 基之前会長（本学 名誉教授）の乾杯でスタートしました。新入会員の紹介や、本所 年吉 洋 所長（幹事・教授）による本所の近況紹介並びに生研同窓会への期待が込められたプレゼンテーションに、会場は大いに盛り上がりました。本学 喜連川 優 特別教授の閉会挨拶で、パーティーは盛会裏に終了しました。

（生研同窓会事務局）



浦副会長による
総会開会挨拶



野村幹事長による
人事・事業報告・活動計画



宮崎幹事による
収支報告・予算説明



目黒幹事による
海外支部活動報告



魚本会長による
総会閉会挨拶



鳴海幹事による
パーティー司会進行



野城新会長による
パーティー開会挨拶



鈴木前会長による
乾杯挨拶



年吉所長による
プレゼンテーション



喜連川特別教授による
パーティー閉会挨拶



年吉所長によるプレゼンテーションの様子



記念集合写真

野村 政宏 教授、コウ シン 特任准教授が 文部科学大臣表彰 科学技術賞を受賞

令和8年度科学技術分野の文部科学大臣表彰受賞者が発表され、野村 政宏 教授、コウ シン特任准教授が科学技術賞を受賞しました。受賞内容および受賞コメントは以下の通りです。おめでとうございます。

(広報室)

表彰	氏名	所属・役職	業績名
科学技術賞	野村 政宏	東京大学 生産技術研究所 教授	フォノンの特殊輸送特性を用いた革新的熱機能デバイスの研究
	コウ シン	東京大学 生産技術研究所 特任准教授	
研究内容： 従来のフーリエ則に基づく拡散的な熱輸送とは全く異なる物理原理である「フォノン流体力学」を活用し、単一材料による熱整流機能を世界で初めて実現しました。 従来技術では、時間反転対称性の制約により、単一かつ均一な材料において熱整流を実現することは物理的に不可能とされてきました。本研究では、天然グラファイトの同位体純化と構造最適化を行うことで、フォノンの集団運動に由来する流体的性質を大幅に強化することに成功しました。そして、「熱は本当に流体のように振舞うのだろうか?」という疑問がわいて、もともと100年以上前にニコラ・テスラによって液体用に開発されたテスラバルブという整流構造をグラファイトで作製してみました。そして、熱流もフォノンポアズイコ流れに起因して整流効果を示すことを世界で初めて実証し、この問いに答えることができました。			



野村教授

受賞コメント

浮かんできた素朴な疑問を突き詰めて、その答えにたどり着く（しかもイチバンに！）ことは研究者としてとても嬉しいことです。受賞につながる研究活動を支えて下さった本所およびスタッフの皆様、共同研究者、研究室メンバーに心から感謝致します。



コウ特任准教授

受賞コメント

本研究は、博士課程において「フォノン流体力学」への関心から始まりました。研究を進める中で、本テーマが将来の科学や社会に対して持つ深い意義を実感するようになりました。本分野の重要性を改めてご認識いただく一助となりましたことを、大変光栄に思います。これまでご指導、ご支援を賜りました諸先生方ならびに研究者の皆さまに、心より感謝申し上げます。今後、より多くの優れた研究者がこの分野に加わり、フォノン流体力学が一層発展していくことを心より願っております。

文化×工学研究会報告

3月から4月にかけて、3回の文化×工学研究会をオンラインにて開催した。

第40回文化×工学研究会（3月2日（月）開催）では当会でもお馴染みである、京都大学 岡田 暁生 名誉教授より、第8回駒Ⅱ音楽祭（3月19日（木）開催）の演奏曲と連動して「クラシック音楽とポピュラー音楽が分離し始めた時代—ベートーヴェン、ショパン、シューマンをめぐって」と題して、初期ロマン派をめぐる時代背景をお話しくださった。第41回文化×工学研究会（3月4日（水）開催）では、「MITとスタンフォードにおける芸術教育」を特集し、音楽ジャーナリストの菅野 恵理子 氏、および本学 大学院情報学環・学際情報学府 高木 聡一郎 教授より、それぞれ

「MIT ではなぜ音楽を学んでいるのか?」「アート思考の最前線とスタンフォード大学における取り組み」と題し、両大学における事例に注目し、現地取材をもとにお話しくださった。第42回文化×工学研究会（4月6日（月）開催）では、本学 総長室アドバイザーを務められる国際協力機構（JICA）中村 俊之 理事長特別補佐より「アフリカの現在地：問題の大陸から希望の大陸へ」と題して講演をいただいた。各回はもとより一連の講演により、世界的な人口構成の急激な変化による、近未来の文化そして工学の将来に思いを馳せた方々も少なくなく、一見、無関係にも思われる領域の相関を考える好機ともなった。

（人間・社会系部門 准教授 戸矢 理衣奈）



岡田名誉教授



中村理事長特別補佐

文化×工学研究会 第41回

MITではなぜ音楽を学んでいるのか?

講師 菅野恵理子 先生 すがの えりこ
音楽ジャーナリスト

【ご略歴】音楽ジャーナリストとして海外での音楽教育取材、国際コンクール演奏評をもとに、音楽で人を育て社会を豊かにすることをテーマに講演などを行う。著書に『MIT 音楽の授業』（あさ出版）、「ハーバード大学は「音楽」で人を育てる」、「未来の人材は「音楽」で育てる」（アルテス・パブリッシング）など。オンライン連載「海外の音楽教育ライブレポート」（ピティナ HP）などがある。上智大学外国語学部卒業。在学中に英ランカスター大学へ交換留学し、社会学を学ぶ。全日本ピアノ指導者協会正会員、マレーシアシンガポール協会アソシエイトメンバー。

アート思考の最前線と
スタンフォード大学における取り組み

講師 高木聡一郎 先生 たかぎ そういちろう
東京大学大学院情報学環教授

【ご略歴】東京大学大学院情報学環教授。ロンドン芸術大学（UAL）客員教授、国際大学 GLOCOM 主幹研究員を務める。これまでハーバード大学ケネディスクール行政大学院アジア・プログラム・フェロー、スタンフォード大学東アジア研究センター客員研究員などを歴任。専門分野は情報経済学、イノベーション、アート思考。主な著書に「デフレミグ戦略 アフター・プラットフォーム時代のデジタル経済の原則」（翔泳社）など。東京大学大学院学際情報学府博士課程修了。博士（学際情報学）。チェロ奏者としても活動している。



第41回研究会案内 菅野氏と高木教授

第3回HPC産業応用拡大プロジェクトシンポジウム 開催

3月17日（火）に、文部科学省のプロジェクトである「『富岳』成果創出加速プログラム」「AIの活用によるHPCの産業応用の飛躍的な拡大と次世代計算基盤の構築」*¹の成果を報告する第3回HPC産業応用拡大プロジェクトシンポジウムを、本所大会議室、および、Webex Webinarsによるハイブリッド形式にて開催した。

今回のシンポジウムでは、本所革新的シミュレーション研究センター長谷川洋介センター長・教授によるプロジェクトの概要紹介をはじめ、産業界のユーザを含む12名の方に講演いただき、令和7年度が最終年度であったプロジェクトの最終成果とそれへの期待を紹介した。最後のパネルディスカッションでは、産業界の方々を登壇者に迎え、「ものづくりシミュレー

ションの今後の展開」と題して、HPCの活用の問題点、AIを活用したものづくりシミュレーション技術と利用する人材の育成、そして、「富岳NEXT」を利用したシミュレーションに対する期待と課題について共有し、ものづくり分野における、今後のシミュレーション技術についての意見交換を行った。

HPCとAIを活用したものづくりシミュレーションの今後のものづくりへの貢献について議論することができた本シンポジウムには、民間企業94社からの参加者を含め、205名（含、現地参加43名）の方々にご参加いただき、盛会裏に終了した。

*¹：HPC（High Performance Computing）
（革新的シミュレーション研究センター
センター長・教授 長谷川 洋介）



長谷川センター長・教授による概要紹介の様子



質疑応答の様子



パネルディスカッションの様子



LIMMS30周年：フランスと日本の卓越した連携の軌跡

3月23日（月）、明治記念館（東京）にてLIMMS/CNRS-IIS（IRL 2820）*¹の設立30周年記念式典が開催された。昨年10月のパリにあるCNRS本部での開催に続き、今回は東京を舞台に「将来ビジョン」をメインテーマに掲げ、研究発表やランプセッションが行われた。

最初に、本学 藤井 輝夫 総長より祝辞、本所 年吉 洋 所長から謝辞があり、続いてCNRS Engineering Lionel Buchailot 部門長・博士、駐日フランス大使館のXavier Bressaud 科学技術参事官、および日本学術振興会（JSPS）星野 有希枝 国際事業部長より祝辞をいただいた。さらに、本所 LIMMS Nicolas Clément ディレクター・博士と野村 政宏 ディレクター・教授から近況を報告し、研究の柱であるバイオ、量子・分子、およびエネルギーの各分野における最新の研究成果と展望が示された。

その後、フランス人研究者や学生を受け入れた経験を持つ多くの本所ホスト教員から、日仏共同研究の歩みを当時のエピソードとともに紹介された。また、現役のフランス人学生やCNRS研究者、エンジニアのLaurent Jalabert 博士、平野 ゆみ 氏らも登壇し、多

様な視点からこれまでの経験や現状、将来への期待が語られた。

「LIMMS ビジョン」と題したランプセッションでは、現状と将来に関する活発な質疑応答が行われ、会場の参加者を交えて大きな盛り上がりを見せ、今後30年の展開が楽しみになる内容であった。懇談会では、初代ディレクターの本学 藤田 博之 名誉教授による乾杯の挨拶に始まり、長年LIMMSの国際研究活動に携わってきた関係者らが旧交を温めた。LIMMSの活動は本所の多くのスタッフに支えられており、改めて心より感謝申し上げる。

*¹ 本所とフランス国立科学研究センター（CNRS）のMEMS技術に関する国際共同研究組織

LIMMS : Laboratory for Integrated Micro Mechatronic Systems

CNRS : Centre National de la Recherche Scientifique

IIS : Institute of Industrial Science

IRL 2820 : CNRS における 正 式 な International Research Laboratory 番号

（LIMMS/CNRS-IIS ディレクター・教授 野村 政宏）



藤井総長による祝辞



星野国際事業部長（当時）による祝辞



Clément ディレクターによる近況報告



野村ディレクターによる近況報告

30 Years of LIMMS: A Legacy of France-Japan Excellence

The 2025–2026 academic year marks the 30th anniversary of LIMMS/CNRS-IIS (IRL 2820), celebrated through two landmark events in Paris and Tokyo.

In October 2025, a ceremony at CNRS Headquarters in Paris featured the official signing of the LIMMS renewal agreement by Dr. Antoine Petit (CEO, CNRS) and Prof. Teruo Fujii (President, UTokyo). The event gathered pioneers, including Jean-Jacques Gagnepain and former directors, concluding with a symbolic dinner at Le Procope—the very site where LIMMS was founded three decades ago.

On March 23, 2026, the celebration continued at Meiji Kinenkan in Tokyo, focusing on our "Future Vision." Distinguished guests included President Fujii, IIS Director Hiroshi Toshiyoshi, Dr. Lionel Buchailot (CNRS), Dr. Xavier Bressaud

(French Embassy), and Ms. Akie Hoshino (JSPS). Following the January 2026 leadership transition, current Directors Dr. Nicolas Clément and Prof. Masahiro Nomura presented a strategic roadmap for our core pillars: Quantum & Molecular, Energy, and Bio technologies.

The event showcased the laboratory's diversity through presentations by Administrative Manager Ms. Yumi Hirano, CNRS Engineer Dr. Laurent Jalabert, and our post-docs and PhDs. Founding Director Prof. Emeritus Hiroyuki Fujita concluded the evening with a moving toast.

We extend our deepest gratitude to the IIS staff and the entire community. LIMMS remains a unique human adventure, and we look forward to the next decade of discovery.

(Director of LIMMS/CNRS-IIS Nicolas Clément)



ランブセッションの様子



ランブセッションでモデレーターを務める
Buchailot 部門長と年吉所長



新旧メンバーが集う懇談会の様子



集合写真

第33回 生研フォーラム 「地球観測とリスク評価を礎とした社会実装とワンヘルス・ワンワールドの共創」

3月25日（水）に、第33回生研フォーラム「地球観測とリスク評価を礎とした社会実装とワンヘルス・ワンワールドの共創」が、本所D棟セミナー室を拠点にハイブリッド開催された。

本フォーラムは1994年の発足以来、宇宙からの「観測」、データの「利用」、そして科学的な「評価」へと、10年ごとにその役割を深化させてきた。33回目を迎えた今回は、これら30年の歩みを「礎（いしずえ）」とし、その先にある具体的な「社会実装（Solution）」と、人間・動物・環境の健全性を一体として捉える「ワンヘルス・ワンワールド」の共創をメインテーマに掲げた。

今回は、フィリピン、タイ、インド、韓国、中国、ミャンマー、日本などから、合計29名の方々が参加し、合計29件の研究発表が質疑も含めて英語で行われた。特に、夕刻に行われた「若手の会」では、対面開催の利点を生かして活発な意見交換が行われ、国籍や所属を越えて次世代のネットワークが深まる貴重な機会となった。

研究発表のおよそ6割が学生によるものであったが、いずれもハイレベルな内容であり、大変聞き応えのあるものであった。発表内容は、Lバンド SAR *¹ や干渉 SAR *² を用いた防災・インフラ監視から、農業フェノロジー *³、温室効果ガス動向、スマート農業（AWD: Alternate Wetting and Drying）の実装まで多岐にわたり、宇宙データが社会課題の解決にいか直結し始めているかを物語っていた。研究発表のおよそ3割が衛星搭載の SAR に関連するものであった

が、これは近年の防災および社会実装において宇宙データ利用が飛躍的に推進していることの表れである。数年前から英語開催としたことで、北海道大学、室蘭工業大学、千葉大学、上智大学、茨城大学、本学など、国内の留学生を中心とした新規メンバーの参加が目立っており、主催者として非常に勇気づけられる結果となった。こうした成果を鑑みると、本フォーラムはリモートセンシングに関連する研究成果が広く集結する、国内外のリアル・バーチャル研究ネットワーク形成ハブとして機能しており、タイのアジア工科大学院（AIT: Asian Institute of Technology）で夏に開催している学生セミナーとともに、今後も継続していくことの意義を強く感じている。年度末のご多忙中にもかかわらず、多くの方々にご出席いただきましたことを感謝し、ここに厚く御礼申し上げる。

*¹: 周波数1～2 GHz 帯／波長約15～30 cmのマイクロ波を使う合成開口レーダー、SAR: Synthetic Aperture Radar

*²: 同じ地域を別の時刻（または別軌道）から SAR で観測した2枚以上のデータの「位相（電波の波のずれ）」の差を使って、地表の情報を高精度に推定する手法、InSAR: Interferometric Synthetic Aperture Radar

*³: 作物の生育・発達が季節の進み方に応じてどう変化するか（＝生育暦）を扱う概念、agricultural phenology

（人間・社会系部門 教授 竹内 渉、
学術専門職員 吉本 英子）



会場全体の様子



ポスターセッションの様子



若手の会 メンバー集合写真



参加者の集合写真

第15回海中海底工学フォーラム・ZERO開催

4月17日（金）、第15回海中海底工学フォーラム・ZERO（<https://seasat.iis.u-tokyo.ac.jp/UTforum/UTforumzero15/>）が、本所コンベンションホールで開催された。本フォーラムは、理学と工学の水面下の接点を探るべく、年に2回、本所（春）と本学 大気海洋研究所（秋）にて、海中海底工学に関する最新の動向を取り上げて開催されている。現地参加が基本だが、オンライン参加も可能である。今回は、現地参加が216名、オンライン参加が77名となり、現地参加への回帰が鮮明になった。

本学 大気海洋研究所 山口 飛鳥 准教授（幹事）が開会の挨拶と前半の講演の司会を行った。本学 大学院工学系研究科 中村 謙太郎 教授による「南鳥島付近に賦存するレアアース泥の成り立ちへの考察と効率的な資源探査手法のための技術開発」に関する講演、続いて、海洋研究開発機構（JAMSTEC）金子 達哉 研究員による「海洋掘削技術の最新のトレンド『自律化』の課題と展望」に関する講演が行われた。次に、NHK 大阪放送局 横山 真也 副部長による「水中鍾乳洞におけるフォトグラメトリー技術による3Dモデリング化事例の紹介と課題」に関する講演、JAMSTEC 高知コア研究所 谷川 亘 グループリーダーによる「火山噴火により松原湖に沈んだ松原宿のマルチビーム測深等による当時の道路や宅地と土地利用の復元」に関する講演が行われた。ことに、松原宿（江戸時代に米沢街道の宿場の一つとして、会津領の国境近くに位置していた近世の宿場町）の調査過程で出土したキンケシ（＝キン肉マン消しゴム）について、現代人類活動を示すテクノ化石として分析し、堆積環境下において物性変化により縮むという化学的特徴を突き止めたという件は、研究対象への深い情熱が聴衆へ伝わる熱弁であった。前半の最後は、1月に日本

初の商用浮体式ウィンドファームとして運用が開始された「五島市沖洋上風力事業」に関して、事業代表である戸田建設株式会社の松信 隆 専門部長が、特に地方共生とサプライヤーチェーン強化の観点から、技術的・制度的課題と将来展望について力強く語った。

休憩を挟んだ後半は、本所 巻 俊宏 准教授（幹事）の司会により、自律型水中ロボット（AUV）とセンシング技術に関する最新の話題が5件紹介された。本所 ソートン ブレア教授による「港から発進して調査を行い自力で戻ってくる AUV の実証試験の紹介と AUV による広域・詳細調査の将来のあり方」に関する講演、日本電気株式会社 植野 剛 プロフェッショナルによる「量子センシング技術、特に原子時計の海洋分野への応用」に関する講演、いであ株式会社 長野 和則 上級研究員による「音響機器を持たず画像情報のみにより自己位置推定手法を行う AUV および位置の基準点となる水中充電ステーションの開発」に関する講演、巻准教授による「首振り式マルチビームイメージングソナーと YOLO を用いた三次元位置推定に基づく、AUV による浮体式洋上風車の係留索追従手法」に関する講演、そして、防衛装備庁 Navinda de Silva 無人航走体評価研究室員による「AI-based fishing net detection technology using optical sensors」(光学センサを用いた AI ベースの漁網検知技術)に関する講演が行われた。最後に、巻准教授が、次回のフォーラム等関連行事の紹介と閉会の挨拶で締めくくった。研究会後の懇談会は、参加者が100名を超え、活発な意見交換が行われ、大盛況であった。

次のフォーラムは、10月16日（金）、大気海洋研究所2階講堂で開催いたします。皆様のご参加をお待ちしています。

（海中観測実装工学研究センター 特任研究員 杉松 治美）



立ち上がって質問に対応する
山口准教授（幹事）



講演を行う
巻准教授（幹事）



谷川グループリーダー
による講演



松信専門部長
による講演



長野上級研究員
による講演



Navinda 室員
による講演



懇談会で乾杯の
挨拶を行う
本学 浦 環 名誉教授

令和8年度第1回生研サロン開催報告

令和8年度第1回生研サロン「もしかする柏 夜の部：柏を探る！」が5月7日（木）15時30分から本所 柏地区キャンパスにおいて開催され、42名が参加しました。

冒頭の見学ツアーでは、研究実験棟Ⅰ、Ⅱおよび実験フィールドの各施設を担当者の解説とともに巡りました。続く研究実験棟Ⅰ 大会議室での話題提供では、本所 企画運営室 浅井 竜也 室員・准教授、水谷 司 室員・准教授の進行のもと、本所 年吉 洋 所長、大規模実験高度解析推進基盤（LEAP）大口 敬 基盤長・副所長による開会挨拶の後、本所 中野 公彦 教授、松永 行子 教授、林 憲吾 准教授からそれぞれ「柏の葉地区におけるレベル4自動運転運行の実施」、「工学とバイオ研

究分野からみる社会実装における柏拠点の魅力」、「旧第二工学部木造校舎の『生研パビリオン』への転生：柏の原点を未来に活かす」と題した講演、三井不動産株式会社 イノベーション推進本部からお越しいただきました皆様より「柏の葉スマートシティの現在と今後～アカデミアとの産学連携～」と題して講演をいただきました。続くホワイトライノⅡでの意見交換会は本所 企画運営室 竹内 渉 室長・教授の乾杯挨拶に始まり、見学ツアーや講演内容を踏まえた活発な意見交換・交流が行われ、本所 年吉 洋 所長の挨拶とともに盛況のうちに閉会しました。

（企画運営室 室員・准教授 浅井 竜也、
室員・准教授 水谷 司）



年吉所長と大口基盤長による開会挨拶



中野教授、松永教授、林准教授による講演



三井不動産株式会社 イノベーション推進本部の
皆様による講演



意見交換会の様子



第7回UT²-MAC (第24回UT²) student workshop開催報告

5月12日(火)から14日(木)までの3日間、第7回 UT²-MAC student workshop がカナダのトロント大学にて開催され、本所から町田 友樹 教授、八木 俊介 教授、鳴海 大翔 講師が参加しました。本ワークショップは、東京大学 (UT)、トロント大学 (UT)、カナダのマクマスター大学 (MAC) の3大学による学生交流を目的とした国際ワークショップです。2003年に開始した東京大学とトロント大学による「UT² student workshop」が発展・拡大したものであり、UT²-MAC student workshop としては今回が第7回、UT² student workshop としては通算第24回の開催となります。今回はトロント大学の主催により実施され、本学側の世話人は、工学系研究科原子力国際専攻 石川 顕一 教授が主担当を務め、同研究科バイオエンジニアリング専攻 中川 桂一 准教授と本所 八木教授も担当しました。

日本およびカナダの両国から、学生約35名、教員約15名が参加しました。トロント大学 Prof. Christopher Yip (Dean of the Faculty of Applied

Science & Engineering) による開会挨拶、および Gwen Burrows (Assistant Vice-President, International Engagement & Impact) による国際連携に関するスピーチで幕を開けました。会期中には、46件の口頭発表と25件のポスター発表が行われたほか、各大学・各専攻の紹介講演が行われ、八木教授から本所の紹介も行われました。

研究発表に加え、交流プログラムとしてバンケット、MLB観戦、ナイアガラの滝へのエクスカッション等も実施され、参加した本学の学生たちはカナダの学生と活発に議論を交わすとともに、普段交わることのない本学の他専攻の学生とも親睦を深めました。

本ワークショップは、日本とカナダの学生の国際交流を主たる目的として、学生らが主体的に準備・運営に携わったものであり、その役割を十分に果たして盛会のうちに終了しました。

(物質・環境系部門 講師 鳴海 大翔)



開会式に参加した本学、トロント大学、マクマスター大学関係者の集合写真



開会式の司会を行うトロント大学の Prof. Naomi Matsuura



本所の紹介を行う八木教授



開会式の様子



口頭発表の司会を行う石川教授



ナイアガラの滝ツアーに参加する学生ら

IIS Women+ Cafeを開催

5月22日（金）、本所C棟ラウンジにて「IIS Women+ Cafe」が開催された。本イベントは、特定の属性に限定せず、多様な立場や背景の学生・研究者・職員が、本所における居心地の良い研究環境づくりについて意見を共有し、ネットワーク形成を図ることを目的として企画されたものである。

当日は約20名が参加し、大学院生の田島 怜奈さん（吉江 尚子 研究室）の進行のもと、冒頭に本所吉江 尚子 教授よりイベントの趣旨説明が行われた。続いて、参加者は4つのグループに分かれ、「こんな環境があればより過ごしやすい」、「既存制度の問題点」など、日常の経験に基づいた率直な意見が多く共有され、活発な議論が展開された。

その後、各グループで取りまとめた意見や要望が本所 年吉 洋 所長に直接伝えられ、これに対し年吉所長

から、要望の実現に向けて前向きに検討していく旨のコメントがあり、参加者にとって実効性への期待が高まる場となった。

本イベントは、終始和やかな雰囲気で行われ、分野や立場を越えた交流が生まれた点も大きな成果であった。最後に年吉所長が、継続的な情報共有とネットワーク形成を目的としてSlackのワークスペース「IIS Women+」の立ち上げを提案をした。今後はオンラインでも意見交換や交流を深めていくことが期待される。このワークスペースに関心のある生研構成員の参加を歓迎しており、参加希望の方は、社会連携・史料室（nikou@iis.u-tokyo.ac.jp）までご連絡いただきたい。

（社会連携・史料室 次長・教授 吉江 尚子）



趣旨説明する吉江教授



ディスカッションの様子



要望へコメントする年吉所長



会場の様子

ITSセミナー in 岡山

5月25日(月)、岡山県岡山市の岡山県医師会館にて、本所 ハーモニック・モビリティ研究センター (ITS センター) は「ITS セミナー in 岡山 ～持続可能なモビリティ～」を開催した。ITS センターでは、研究成果の社会還元、地域のニーズに即した ITS (Intelligent Transport Systems、高度道路交通システム) の普及促進、人材育成・交流を目的として、2006 年から全国各地でセミナーを開催している。今回は、その 45 回目にあたり、会場 54 名、オンライン 37 名、合計 91 名が参加し、盛況となった。

はじめに、ITS センター 中野 公彦 センター長・教授および共催の岡山大学 学術研究院 環境生命自然科学学域 橋本 成仁 教授による開会挨拶で幕を開けた。第1部では中野教授から「柏の葉地区におけるレベル4自動運転運行の実施」、ITS センター 鳥海 梓 特任准教授から「持続可能なモビリティを支える街路ネットワーク再編の計画論 一歩行を軸とした「みち」の在り方再整理」と題して本所の取り組みが紹介された。第2部では、岡山大学 学術研究院 環境生命自然科学学域 野上 保之 教授より「ITS におけるデータ連携と

サイバーセキュリティ：AI時代の社会基盤設計」、両備ホールディングス株式会社 大上 真司 上席執行役員 CMSO・グループ CMSO より「両備グループのモビリティサービス事業が見据えている未来」、岡山市 都市整備局 交通政策課 地域公共交通推進室 平田 晋一 副主査より「岡山市の公共交通政策について」、玉野市 地域振興部 協働・交通政策課 新 仁司 主査より「玉野市コミュニティ交通事業について」、国土交通省中国地方整備局 岡山国道事務所 安部 正和 副所長より「岡山国道事務所の新たな挑戦」と題して、セミナー開催地を中心に進められている様々な取り組みが紹介された。第3部では、本所 ITS センター 大口 敬 前センター長・教授をモデレータ、第2部の講演者をパネリストとするパネルディスカッションが行われた。地域に密着した持続可能なモビリティの実装とその課題について、分野を超えた深い議論が行われた。最後は、安部副所長による挨拶で幕を閉じた。

(ハーモニック・モビリティ研究センター

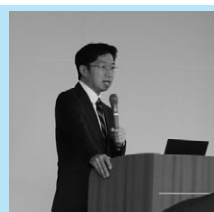
助教 羽佐田 紘之)



中野センター長による開会挨拶



橋本教授による開会挨拶



中野教授による講演



鳥海特任准教授による講演



野上教授による講演



大上上席執行役員 CMSO による講演



平田副主査による講演



新主査による講演



安部副所長による講演



パネルディスカッションの様子 左から、大口前センター長、野上教授、大上上席執行役員 CMSO、平田副主査、新主査、安部副所長



盛況となった会場の様子

ハンガリー研究ネットワーク (HUN-REN) エネルギー研究センター所長御一行来訪

6月1日(月)、ハンガリー研究ネットワーク エネルギー研究センター (HUN-REN Centre for Energy Research) Ákos Horváth 所長・博士、Gábor Pintér 研究グループリーダー・博士、および駐日ハンガリー大使館 Csanád Ferencz 科学技術担当官が本所を訪問された。

当日は、所長室において、本所 年吉洋 所長、吉川暢宏 教授、福谷 克之 教授が一行をお迎えし、はじめに年吉所長から本所の概要説明、次に吉川教授および福谷教授から、それぞれの研究内容について紹介が行われた。続いて、Horváth 所長よりエネルギー研究センターについての概要説明があった。

同センターは、エネルギー分野においてハンガリーを代表する研究機関の一つであり、原子力安全・セキュリティ、核融合工学、再生可能エネルギー、水素、お

よびエネルギー貯蔵などを研究対象としている。また、ナノ構造・表面科学や光アノード・水分解といった、先端材料・エネルギー研究も幅広く展開しており、その一端として高効率触媒や太陽エネルギー変換に関わる分野でも、国際学術誌への掲載を含む研究成果を有している。

その後、双方の研究分野や関心領域について意見交換が行われた。特に、水素関連技術やエネルギー分野における共同研究の可能性を含め、学生や研究者の派遣や受け入れなど、今後の連携の方向性について幅広く懇談が行われた。

今回の訪問は、今後の研究交流および協力関係構築に向けた第一歩となることが期待される。

(国際交流チーム 係長 濱田 英梨子)



(前列左から) Horváth 所長、年吉所長
(後列左から) Ferencz 科学技術担当官、Pintér 研究グループリーダー、吉川教授、福谷教授

ダイニングラボ活動報告

駒場リサーチキャンパスのダイニングラボは、継続的に様々な企画を開催している。

駒場リサーチキャンパス構成員対象の交流企画「KOMANI BREAK TIME」は、3月13日（金）、4月23日（木）、5月25日（月）、6月15日（月）の計4回、開催した。同企画はスタートから約4年が経過し、会を追うごとに参加者が増加し、リサーチキャンパスの定番企画となりつつある。

ランチタイムのリレー企画「はし休めプチトーク」は、4月15日（水）に第25回を開催し、本所 梅野 宜崇 教授が「壊す」をテーマに、研究紹介を行った。

また、4月15日（水）には、新入生向けガイダンスの終了後、本所／生研同窓会／技術人材のタレント・マネジメント特別研究会の共催で、「学生懇談会」を開催した。これは、新入生の入学を祝うとともに、本所に所属する全学生の交流促進を目的としたもので、当

日は140名が参加した。はじめに、本所 年吉 洋 所長の開会挨拶があり、生研同窓会 魚本 健人 会長・本学名誉教授や技術人材のタレント・マネジメント特別研究会に参加のウエスタンデジタルテクノロジーズ合同会社と株式会社 IDAJ の皆様からも、新入生や在学生に向けた温かい言葉が寄せられた。

続いて、所内における学生向け組織やイベントに関するプレゼンテーションが4件行われ、それらの話題をきっかけに、参加者同士が活発に交流を深める様子が見られた。会の途中には、本学 藤井 輝夫 総長がサプライズで登場し、気軽に記念撮影に応じるなど、会場は大いに盛り上がった。最後に、本所 吉川 暢宏 教授による閉会挨拶が行われ、学生懇談会は、盛況のうちに終了した。

（社会連携・史料室）



はし休めプチトーク 梅野教授による講演の様子



学生懇談会 年吉所長による開会挨拶、当日の様子

PRESS RELEASE

【3月31日記者発表】

東京大学とデンソー、産学協創協定の締結

～走るほど、満ちる社会へ：モビリティから広がる未来の社会価値～

人間・社会系部門 准教授 本間 裕大



本学と、株式会社デンソー（愛知県刈谷市、代表取締役社長：林 新之助、以下、「デンソー」）は、2026年4月1日より、10年間にわたる産学協創協定を締結します。本協創事業は、東京大学におけるモビリティ分野初の組織対組織による長期包括連携となります。「走るほど、満ちる社会へ：モビリティから広がる未来の社会価値」を共通ビジョンに掲げ、モビリティを起点としてエネルギー、データ、都市インフラの連携を深め、人の幸福度向上にもつながる持続可能な社会システムの構築に挑みます。

■協創事業の概要

- ・協定期間：2026年4月1日～2036年3月31日（10年間）
- ・形態：産学協創（組織対組織の長期パートナーシップ）
- ・東京大学側ラボ長：本間 裕大（東京大学生産技術研究所 准教授）
- ・デンソー側ラボ長：八東 真一（株式会社デンソー 執行幹部）
- ・中核拠点：東京大学生産技術研究所

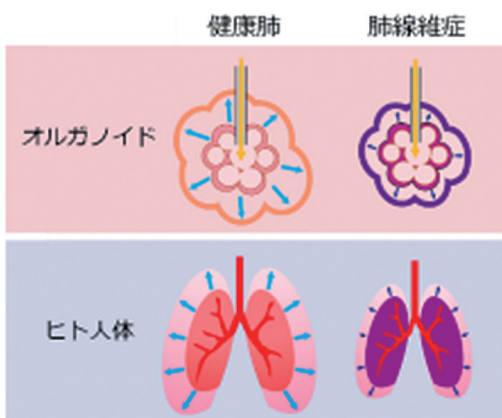
<https://www.iis.u-tokyo.ac.jp/ja/news/5039/>

詳細： https://www.u-tokyo.ac.jp/focus/ja/press/z1701_00091.html

【3月31日記者発表】

“呼吸する” 肺オルガノイド!? ——ヒト肺オルガノイドで動的な呼吸の力学を再現——

機械・生体系部門 特任助教 池尾 聡、特任教授 竹内 昌治



本所 竹内 昌治 特任教授（本務：本学 大学院情報理工学系研究科 教授）、池尾 聡 特任助教、本学 大学院情報理工学系研究科 谷 佑太 大学院生（研究当時）、HiLung 株式会社 山本 佑樹 代表取締役らによる研究グループは、ヒト肺の末梢構造である肺細葉を模した肺細葉様オルガノイド（PAcinO）を開発した。さらに、オルガノイド内部に直接アクセスし、内腔から圧力を負荷することができるデバイス（DENIRO）を開発した。両者を組み合わせた実験系（PAcinOs in DENIRO）を構築し、光干渉断層法（OCT）による非侵襲的な三次元観察を行うことで、圧力負荷に伴うオルガノイドの体積変化および肺コンプライアンスを定量化することに成功した。加えて、線維化を引き起こすことで知られるプレオマイシンを添加することでPAcinOに線維化様の力学的硬化を再現し、既存の肺線維症治療薬の効果評価を行った。

本研究成果は、ヒト生体では直接の観察が極めて困難な肺の微細な構造や生体力学の研究に貢献するとともに、肺線維症など肺が硬くなりコンプライアンスが低下する疾患の理解や、新規治療薬の効果検証に役立つことが期待される。

<https://www.iis.u-tokyo.ac.jp/ja/news/5038/>

掲載誌： *Biomaterials*

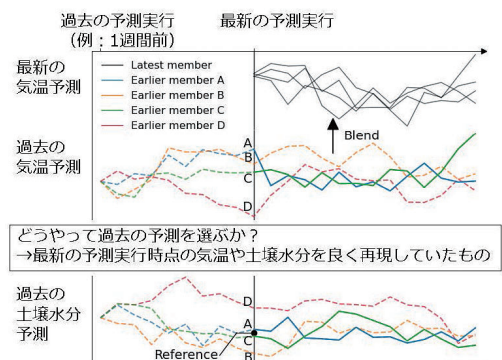
DOI：10.1016/j.biomaterials.2026.124094

【4月7日記者発表】

2週間の予測精度の壁に挑む

——過去予測を選んで利用する中期気象予測手法「LEAS」を開発——

人間・社会系部門 特任講師 徳田 大輔



1～5週間先の気象予測（S2S予測）は、防災・農業・エネルギー需給管理などの意思決定に重要だが、その精度は約2週間を境に急速に低下することが知られている。

本研究では、過去の予測データの中から「現在の状況を最も良く再現していたもののみ」を選び出して再利用する新手法「LEAS（リース）」を開発した。その結果、検証した4つ全ての気象予測モデルにおいて、1～5週間先の気温予測精度が改善した。この効果は、地面の湿り具合などの陸の状態が、その後の気温予測に与える影響を適切に反映できたためだと考えられる。

追加計算を伴わない後処理手法であり、既存の運用予測システムにも導入可能である。数週間先の予測精度の向上は、熱波などの極端気象への事前対応、電力需給の最適化、農業計画の高度化などに直接的に貢献する可能性が期待される。

<https://www.iis.u-tokyo.ac.jp/ja/news/5043/>

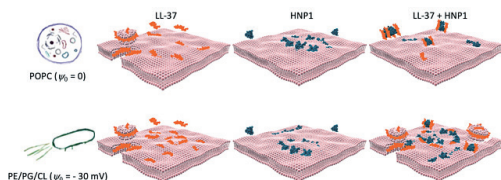
掲載誌： *Proceedings of the National Academy of Sciences*

DOI：10.1073/pnas.2524516123

【4月7日記者発表】

抗菌ペプチドの「ダブル協奏効果」の原理を解明 ——薬剤耐性菌に対抗する次世代抗菌薬設計に一つの可能性——

物質・環境系部門 准教授 杉原 加織



薬剤耐性菌の増加により抗菌ペプチドが注目されているが、ヒト細胞への毒性が課題となっていた。

体内に存在する2種類の抗菌ペプチド（LL-37とHNP1）が、膜の脂質環境に応じて集合・解離を切り替え、抗菌活性とヒト細胞への毒性を調節する仕組み（ダブル協奏効果）を解明した。

抗菌ペプチドの新たな組み合わせ探索など、薬剤耐性菌に対してより安全な次世代抗菌薬の開発につながると期待される。

<https://www.iis.u-tokyo.ac.jp/ja/news/5047/>

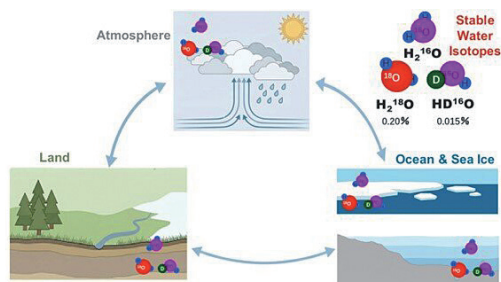
掲載誌: *Angewandte Chemie International Edition*

DOI: 10.1002/anie.202516436

【4月13日共同発表】

降水・水蒸気・海水の同位体から水循環の履歴を読み解く気候モデル「MIROC6-iso」を開発 ——年々変動の再現性向上、観測データの無い地域や時代の気候復元が可能に——

人間・社会系部門 特任助教 コクワン アレクサンドル、教授 芳村 圭



大気・陸・海洋・海水を結合した全球気候モデルに「水の同位体」の挙動を実装したモデルを日本で初めて開発した。

産業革命後から近年（1850-2014年）の降水・水蒸気・海水・海水の同位体比を、観測と統合的に再現した。

大気と海洋の相互作用を考慮することにより、太平洋表層海水の酸素同位体比（ $\delta^{18}\text{O}_{\text{sw}}$ ）の空間分布に加え、エルニーニョ・ラニーニャ現象に起因する年々変動の再現性が向上し、鉛直混合と水平移流の重要性を示した。

<https://www.iis.u-tokyo.ac.jp/ja/news/5051/>

掲載誌: *Journal of Geophysical Research: Atmospheres*

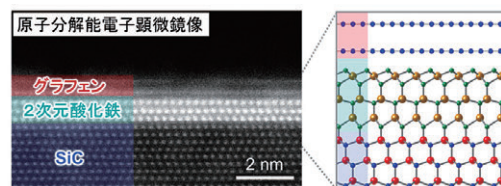
DOI: 10.1029/2025MS005082

（発表主体：中央大学）

【4月13日共同発表】

自然界には存在しない構造を持つ2次元酸化鉄の作製に成功 ～グラフェン/SiC 界面が生み出す新物質～

基礎系部門 技術専門職員 河内 泰三、教授 福谷 克之



2次元物質であるグラフェンと3次元物質であるSiCの界面に、自然界に安定には存在しない構造を持つ2次元酸化鉄の作製に成功した。これまでは、鉄の高い反応性のため、磁性を持たない炭化物やケイ化物が形成されることが知られていたが、界面に鉄と酸素を導入する新たな手法により、新規2次元酸化鉄形成を実現した。この2次元酸化鉄は、スピントロニクスデバイスへの応用が期待され、さらに他の遷移金属酸化物に展開することで新たな量子物性の開拓につながる可能性がある。

<https://www.iis.u-tokyo.ac.jp/ja/news/5052/>

掲載誌: *Small Methods*

DOI: 10.1002/smt.202501889

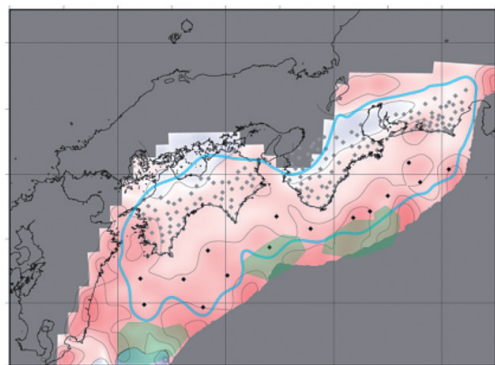
（発表主体：早稲田大学）

PRESS RELEASE

【6月4日記者発表】

南海トラフ沿いの固着は時間的に「変化する場所」と「変化しない場所」がある ——プレート境界の固着状態の時空間変動を観測から把握——

機械・生体系部門 准教授 横田 裕輔



海上保安庁による11年間の精密な海底地殻変動観測データを解析し、プレート境界のくっつき具合（固着状態）が変化するパターンを初めて明らかにした。

震源域の中でも、巨大地震のエネルギーを溜め込み続けている「安定した固着域」が主に日本列島南岸に近い海底下に存在し、「固着が時間変動する領域」がその南側に存在することを突き止めた。

今後の観測継続によってさらに高精度に分布を理解できるようになると考えられる。海底下の固着の時間変動を観測データから把握できるようになったことで、将来の地震の規模や性質をより正確に見極め、国や地域の防災対策に活かされることが期待される。

<https://www.iis.u-tokyo.ac.jp/ja/news/5081/>

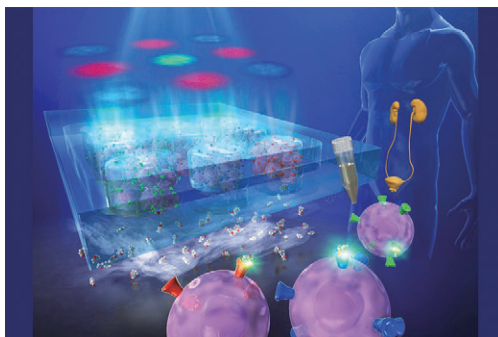
掲載誌：Earth, Planets and Space

DOI：10.1186/s40623-026-02472-1

【6月9日共同発表】

昆虫の嗅覚を利用し、尿の“におい成分”を細胞で読み取る ～がん関連揮発性物質候補を検出するバイオハイブリッド型匂いセンサを開発～

機械・生体系部門 特任教授 竹内 昌治



神奈川県立産業技術総合研究所 三村久敏 研究員、大崎寿久 サブリーダー、本学 大学院情報理工学系研究科 竹内昌治 教授（本所学内クロスアポイント特任教授）、住友化学株式会社 高橋康彦 統括研究員らの共同研究グループは、JST 戦略的創造研究推進事業CREST「情報担体を活用した集積デバイス・システム」研究領域（JPMJCR20C4）の支援のもと、昆虫由来の嗅覚受容体を発現させたセンサ細胞を用いるバイオハイブリッド型匂いセンサの研究を進めてきた。

本研究では、昆虫由来の嗅覚受容体を発現したセンサ細胞を用い、尿中のがん関連揮発性物質候補を検出するマルチセンサアレイを開発した。高い分子認識能力を活用し、気相測定で干渉を抑制しつつ検出が可能であり、低侵襲なバイオマーカー検査や医療・食品・環境分野への応用が期待される。

<https://www.iis.u-tokyo.ac.jp/ja/news/5085/>

掲載誌：ACS Sensors

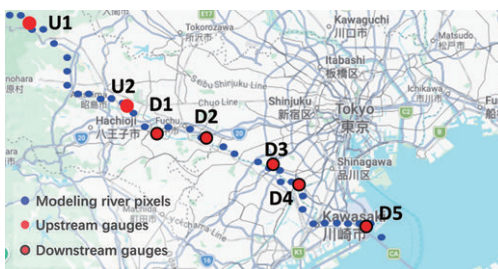
DOI：10.1021/acssensors.5c04942

（発表主体：神奈川県立産業技術総合研究所）

【6月9日記者発表】

日本のリアルタイム洪水予測の精度向上のための観測とシミュレーションの融合

人間・社会系部門 修士課程（研究当時）柳 莹莹、教授 芳村 圭



リアルタイムデータ同化洪水予測システムを開発し、日本全国の主要河川の80%で流量予測精度を向上させ、日本全国の水位観測地点の60%以上で信頼性の高い洪水予測を実現可能であることを示した。

早期警戒システムのモデルを変更することなく、1,800の水位観測データを用いて初期状態を補正するだけで、これまで予測が困難であった急峻な洪水のピーク流量の捕捉に成功した。

最大1日前からの洪水予測精度の向上により、避難準備や緊急対応のための時間的余裕が生まれ、人的・経済的被害の軽減への貢献が期待される。

<https://www.iis.u-tokyo.ac.jp/ja/news/5083/>

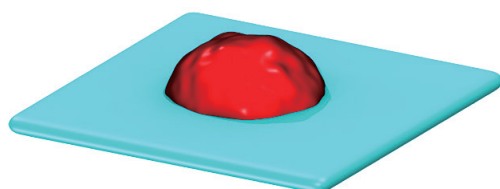
掲載誌：Journal of Hydrology

DOI：10.1016/j.jhydrol.2026.135680

【6月22日記者発表】

水のぬれを支配する「線張力」の起源を解明 ——接触線での水分子構造の崩壊が符号反転を生む——

着霜制御サイエンス社会連携研究部門 特任研究員（研究当時）モイド モハド、
先端科学技術研究センター 特任研究員 田中 肇



水滴・固体・気体の境界線に働く「線張力」の微視的起源を、分子レベルで明らかにした。

線張力は表面化学だけで決まるのではなく、接触線での水分子の四面体構造の崩壊によって大きさだけでなく符号まで反転することを示した。

さらに、親水性基板上に形成された二分子層氷が、構造ミスマッチのために見かけ上疎水的に振る舞うことを見出し、ぬれの制御に新たな分子設計指針を与えた。

<https://www.iis.u-tokyo.ac.jp/ja/news/5087/>

掲載誌：Nature Physics

DOI：10.1038/s41567-026-03299-z

V I S I T S

■国際研究員

氏 名	国 籍	期 間	受 入 研 究 室
DAI, Zhonghua	中国	2026/ 6/ 1 ～ 2026/11/30	基礎系部門 福谷 克之 教授

■国際協力研究員

氏 名	国 籍	期 間	受 入 研 究 室
TOSINI, Francesco	イタリア	2026/ 5/20 ～ 2026/11/20	情報・エレクトロニクス系部門 佐藤 洋一 教授
CHUNG, Melvin Hsien Liang	マレーシア	2026/ 7/ 1 ～ 2026/ 9/28	人間・社会系部門 沼田 宗純 准教授
KHOYRATEE, Farad	フランス	2026/ 7/ 1 ～ 2027/12/31	物質・環境系部門 南 豪 准教授
AKINTERINWA, Ayodele	ナイジェリア	2026/10/ 1 ～ 2027/ 3/31	物質・環境系部門 吉江 尚子 教授
IVONA, Claudio	イタリア	2026/ 9/ 3 ～ 2027/ 3/10	人間・社会系部門 大岡 龍三 教授

■博士研究員

氏 名	国 籍	期 間	受 入 研 究 室
DASHTI, Soheil	イラン	2026/ 5/ 1 ～ 2027/ 3/31	人間・社会系部門 加藤 孝明 教授
PURAMANIK, Supriti	インド	2026/ 5/ 1 ～ 2026/ 8/31	物質・環境系部門 井上 純哉 教授

■修士研究員

氏 名	国 籍	期 間	受 入 研 究 室
澤田 頌子	日本	2026/ 5/ 1 ～ 2027/ 3/31	情報・エレクトロニクス系部門 豊田 正史 教授
間崎 紀稀	日本	2026/ 5/ 1 ～ 2027/ 4/30	人間・社会系部門 今井 公太郎 教授
GAUTAM, Adwick	インド	2026/ 8/ 1 ～ 2027/ 7/31	基礎系部門 福谷 克之 教授

■東京大学特別研究員

氏 名	国 籍	期 間	受 入 研 究 室
関森 祐樹	日本	2026/ 4/ 1 ～ 2027/ 3/31	機械・生体系部門 巻 俊宏 准教授
原 佑太郎	日本	2026/ 4/ 1 ～ 2027/ 3/31	人間・社会系部門 桑野 玲子 教授
張 景	中国	2026/ 5/ 1 ～ 2027/ 3/31	物質・環境系部門 杉原 加織 准教授

■人事異動

生産技術研究所 教員等

(退職)

発令年月日	氏 名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
R8. 3.31	平本 俊郎	定年退職	特任研究員(特定短時間)工学系研究科	教授 情報・エレクトロニクス系部門
R8. 3.31	横井 喜充	定年退職	—	助教 基礎系部門
R8. 3.31	AZIZ MUHAMMAD	退職	教授 国立大学法人東北大学環境科学研究科	准教授 機械・生体系部門
R8. 3.31	大内 隆成	退職	—	講師 物質・環境系部門
R8. 3.31	美谷周二朗	退職	特任講師 基礎系部門	助教 基礎系部門
R8. 3.31	栗生 識	退職	—	助教 機械・生体系部門
R8. 3.31	山本 成一	退職	准教授 大学共同利用機関法人情報・システム研究機構国立情報学研究所	助教 情報・エレクトロニクス系部門
R8. 3.31	林 周志	退職	—	助手 情報・エレクトロニクス系部門
R8. 3.31	更屋 拓哉	退職	—	助手 情報・エレクトロニクス系部門
R8. 3.31	上野 耕平	退職	—	助教 物質・環境系部門
R8. 3.31	檜垣 達也	退職	—	助教 物質・環境系部門
R8. 3.31	CHOW SIU YU	退職	—	助教 物質・環境系部門
R8. 3.31	小南 弘季	退職	—	助教 人間・社会系部門

(学内異動 (出))

発令年月日	氏 名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
R8. 4. 1	川越 至桜	配置換	教授 大学院情報学環	教授 機械・生体系部門
R8. 4. 1	井出 倫汎	配置換	講師 大学院工学系研究科附属システムデザイン研究センター	講師 情報・エレクトロニクス系部門

(学内異動 (入))

発令年月日	氏 名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
R8. 4. 1	大島 まり	配置換	教授	教授 大学院情報学環
R8. 4. 1	木野 佳音	昇任	講師 人間・社会系部門	助教 大学院工学系研究科

(所内異動)

発令年月日	氏 名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
R8. 5. 1	木野 佳音	配置換	講師 附属大規模実験高度解析推進基盤	講師 人間・社会系部門

(採用)

発令年月日	氏 名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
R8. 4. 1	LEELAPRACHAKUL TATCHAPHON	採用	助教 基礎系部門 梅野研究室	特任助教 基礎系部門
R8. 4. 1	高羽 悠樹	採用	助教 基礎系部門 古川研究室	—
R8. 4. 1	付 東升	採用	助教 機械・生体系部門 古島研究室	特定研究員 国立大学法人京都大学大学院 工学研究科
R8. 4. 1	黒川 穂高	採用	助教 情報・エレクトロニクス系部門 野村研究室	特任教員(助教) 国立大学法人横浜国立大学先端科学高等研究院
R8. 4. 1	高見澤和彦	採用	助教 電子計算機室	総務技官 総務省 東北総合通信局
R8. 4. 1	ドンキー 智也 ルカ	採用	助教 物質・環境系部門 池内研究室	特任研究員 物質・環境系部門
R8. 4. 1	原田 和典	採用	助教 人間・社会系部門 坂本研究室	—

(採用)

発令年月日	氏 名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
R8. 5. 1	木山 竜二	採用	助教 物質・環境系部門 吉江研究室	博士研究員 北海道大学大学院先端生命科学研究所
R8. 5. 1	JEOUNG HYEONGJUN	採用	助教 物質・環境系部門 岡部(徹)研究室	—
R8. 5. 1	神谷 英礼	採用	助教 電子計算機室	技術専門職員 宇都宮大学総合メディア基盤センター

(副所長・附属研究施設長)

発令年月日	氏 名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
R8. 4. 1	大口 敬	兼務	副所長	—
R8. 4. 1	新野 俊樹	兼務	副所長	—
R8. 4. 1	町田 友樹	兼務	副所長	—
R8. 4. 1	大口 敬	兼務	附属大規模実験高度解析推進基盤長	—
R8. 4. 1	新野 俊樹	兼務	附属価値創造デザイン推進基盤長	—
R8. 4. 1	北澤 大輔	兼務	附属大規模実験高度解析推進副基盤長	—
R8. 4. 1	鹿園 直樹	兼務	附属持続型材料エネルギーインテグレーション研究センター長	—

(兼務教員)

発令年月日	氏 名	異動内容	兼務職名・所属	本務職名・所属
R8. 4. 1	山中 俊治	兼務	特任教授 附属価値創造デザイン推進基盤	特別教授 東京大学特別教授室
R8. 4. 1	PENNINGTON MILES RICHARD MACINTOSH	兼務	教授 附属価値創造デザイン推進基盤	教授 大学院情報学環
R8. 4. 1	川越 至桜	兼務	教授 機械・生体系部門	教授 大学院情報学環
R8. 4. 1	目黒 公郎	兼務	教授 人間・社会系部門	教授 大学院情報学環
R8. 4. 1	大原 美保	兼務	教授 人間・社会系部門	教授 大学院情報学環
R8. 4. 1	岩本 敏	兼務	教授 情報・エレクトロニクス系部門	教授 先端科学技術研究センター
R8. 4. 1	瀬崎 薫	兼務	教授 情報・エレクトロニクス系部門	教授 空間情報科学研究センター
R8. 4. 1	関本 義秀	兼務	教授 人間・社会系部門	教授 空間情報科学研究センター
R8. 4. 1	北條 博彦	兼務	教授 物質・環境系部門	教授 環境安全研究センター
R8. 4. 1	山川 雄司	兼務	准教授 機械・生体系部門	准教授 大学院情報学環
R8. 4. 1	上條 俊介	兼務	准教授 情報・エレクトロニクス系部門	准教授 大学院情報学環
R8. 4. 1	沼田 宗純	兼務	准教授 人間・社会系部門	准教授 大学院情報学環
R8. 4. 1	松久 直司	兼務	准教授 情報・エレクトロニクス系部門	准教授 先端科学技術研究センター
R8. 4. 1	井出 倫汎	兼務	講師 情報・エレクトロニクス系部門	講師 大学院工学系研究科

(客員部門)

発令年月日	氏 名	異動内容	職名・所属	本務職名・所属
R8. 4. 1	紙田 徹	委嘱 称号付与	客員教授 高次協調モデリング部門	—
R8. 4. 1	崔 竣豪	委嘱 称号付与	客員教授 基礎系部門	—
R8. 4. 1	松井 良太	委嘱 称号付与	客員教授 基礎系部門	—
R8. 4. 1	荒木英一郎	委嘱 称号付与	客員教授 機械・生体系部門	—
R8. 4. 1	寒川 哲臣	委嘱 称号付与	客員教授 情報・エレクトロニクス系部門	—
R8. 4. 1	伊藤 哲朗	委嘱 称号付与	客員教授 人間・社会系部門	—

PERSONNEL

(寄付研究部門等)

発令年月日	氏 名	異動内容	兼務職名・所属	本務職名・所属
R8. 4. 1	岡部 徹	兼 務	特任教授 非鉄金属資源循環工学寄付研究部門	教授 附属持続型材料エネルギーインテグレーション研究センター
R8. 4. 1	所 千晴	兼 務	特任教授 非鉄金属資源循環工学寄付研究部門	教授 大学院工学系研究科
R8. 4. 1	山中 俊治	兼 務	特任教授 非鉄金属資源循環工学寄付研究部門	特別教授 東京大学特別教授室
R8. 4. 1	鳴海 大翔	兼 務	特任講師 非鉄金属資源循環工学寄付研究部門	講師 物質・環境系部門
R8. 4. 1	芦原 聡	兼 務	特任教授 ニコン 光・精密フロンティア寄付研究部門	教授 基礎系部門
R8. 4. 1	池内与志穂	兼 務	特任教授 ニコン 光・精密フロンティア寄付研究部門	教授 物質・環境系部門
R8. 4. 1	森竹 勇斗	兼 務	特任准教授 ニコン 光・精密フロンティア寄付研究部門	准教授 基礎系部門
R8. 4. 1	鹿園 直毅	兼 務	特任教授 エネルギーシステムインテグレーション社会連携研究部門	教授 附属持続型材料エネルギーインテグレーション研究センター
R8. 4. 1	大岡 龍三	兼 務	特任教授 エネルギーシステムインテグレーション社会連携研究部門	教授 附属持続型材料エネルギーインテグレーション研究センター
R8. 4. 1	岩船由美子	兼 務	特任教授 エネルギーシステムインテグレーション社会連携研究部門	教授 人間・社会系部門
R8. 4. 1	本間 裕大	兼 務	特任准教授 都市街路スマート・モビリティ学社会連携研究部門	准教授 人間・社会系部門
R8. 4. 1	本間 裕大	兼 務	特任准教授 脱炭素モビリティ・インフラ戦略社会連携研究部門	准教授 人間・社会系部門
R8. 4. 1	大口 敬	兼 務	特任教授 脱炭素モビリティ・インフラ戦略社会連携研究部門	教授 人間・社会系部門
R8. 4. 1	中野 公彦	兼 務	特任教授 脱炭素モビリティ・インフラ戦略社会連携研究部門	教授 機械・生体系部門
R8. 4. 1	平岩 洋三	兼 務	特任准教授 脱炭素モビリティ・インフラ戦略社会連携研究部門	准教授 人間・社会系部門
R8. 4. 1	羽佐田絢之	兼 務	特任助教 脱炭素モビリティ・インフラ戦略社会連携研究部門	助教 人間・社会系部門

(特任教員)

発令年月日	氏 名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
R8. 3.31	龍野 道宏	任期満了	—	特任講師
R8. 3.31	伊藤真利子	任期満了	特任講師 (特定短時間)	特任講師
R8. 3.31	LEEAPRACHAKUL TATCHAPHON	任期満了	助教	特任助教
R8. 3.31	池尾 聡	任期満了	—	特任助教
R8. 3.31	KLEBANOV YURI	任期満了	特任研究員 (特定短時間)	特任助教
R8. 3.31	GONG JIAMING	任期満了	—	特任助教
R8. 3.31	霜野 慧亮	任期満了	—	特任助教
R8. 3.31	宮崎 邦洋	任期満了	特任助教	特任助教 (特定短時間)
R8. 3.31	池谷 風馬	任期満了	助教 国立大学法人名古屋工業大学	特任助教
R8. 3.31	CAO VU QUYNH ANH	任期満了	助教 大学院工学系研究科社会基盤学専攻	特任助教 人間・社会系部門
R8. 4. 1	安田 浩保	採用	特任准教授 人間・社会系部門	准教授 国立大学法人新潟大学
R8. 4. 1	美谷周二朗	採用	特任講師 基礎系部門	助教 基礎系部門
R8. 4. 1	伊藤真利子	採用	特任講師 (特定短時間)	特任講師
R8. 4. 1	伊佐野雄司	採用	特任助教 情報・エレクトロニクス系部門 松久研究室	—
R8. 4. 1	WU XIN	採用	特任助教 情報・エレクトロニクス系部門 野村研究室	特別研究員 独立行政法人日本学術振興会

(特任教員)

発令年月日	氏 名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
R8. 4. 1	宮崎 邦洋	採用	特任助教 情報・エレクトロニクス系部門 豊田 (正) 研究室	特任助教 (特定短時間)
R8. 4. 1	KONIEZNY ANJA	採用	特任助教 物質・環境系部門 池内研究室	特別研究員 独立行政法人日本学術振興会
R8. 4. 1	高原 柚	採用	特任助教 人間・社会系部門 林 (憲) 研究室	—
R8. 4. 1	内藤 千尋	採用	特任助教 人間・社会系部門 竹内 (渉) 研究室	—
R8. 4. 1	丸山 純矢	採用	特任助教 人間・社会系部門 本間 (裕) 研究室	特別研究員 独立行政法人日本学術振興会
R8. 4. 1	茂木 大知	採用	特任助教 人間・社会系部門 安田研究室	特任助教 国立大学法人新潟大学
R8. 4. 1	小松 洋介	任命	特任講師	特任助教
R8. 4. 1	高谷 和樹	任命	特任助教 基礎系部門 浅井研究室	特任研究員
R8. 4. 1	竹内 昌治	任命	特任教授 学内クロス・アポイントメント	教授 工学部情報理工学系研究科
R8. 4. 1	CHEN YAN	任命	特任助教 機械・生体系部門 大島研究室	特任研究員
R8. 4. 1	松久 直司	任命	特任准教授 学内クロス・アポイントメント	准教授 先端科学技術研究センター
R8. 4. 1	SAENGKAEW JITTAPORN	任命	特任助教 物質・環境系部門 八木研究室	特任研究員
R8. 4. 1	QIAO LING	任命	特任助教 物質・環境系部門 井上研究室	特任研究員
R8. 4. 1	平岩 洋三	任命	特任准教授 都市街路スマート・モビリティ学社会連携研究部門	准教授 人間・社会系部門
R8. 5. 1	FANG ZHENG	任命	特任助教 人間・社会系部門 酒井 (雄) 研究室	特任研究員
R8. 5. 1	KOMANDER KRISTINA	採用	特任助教 基礎系部門 福谷研究室	—

(特任研究員)

発令年月日	氏 名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
R8. 3.31	鈴木 慎一	定年退職	—	特任研究員
R8. 3.31	水谷 朋子	定年退職	特任研究員 (再雇用)	特任研究員
R8. 3.31	SONG WENQING	任期満了	—	特任研究員
R8. 3.31	近藤 恒	任期満了	特任研究員 新領域創成科学研究科	特任研究員
R8. 3.31	FANG TINGTING	任期満了	—	特任研究員
R8. 3.31	CHEN XIANGXIANG	任期満了	日本学術振興会 外国人特別研究員	特任研究員
R8. 3.31	NEETTYATH UMESH	任期満了	特任研究員 (特定短時間)	特任研究員
R8. 3.31	WANG SHUOHAN	任期満了	助教 国立大学法人東京科学大学	特任研究員
R8. 3.31	WENG YANG	任期満了	—	特任研究員
R8. 3.31	高 紅霞	任期満了	—	特任研究員
R8. 3.31	KORSA TESSA	任期満了	—	特任研究員
R8. 3.31	杉谷 善信	任期満了	—	特任研究員
R8. 3.31	萩野 光明	任期満了	—	特任研究員
R8. 3.31	村上 健一	任期満了	—	特任研究員
R8. 3.31	KIM SUNGHUN	任期満了	—	特任研究員
R8. 3.31	GUILLEMOT Victor Adrien	任期満了	—	特任研究員
R8. 3.31	櫛田 知義	任期満了	—	特任研究員
R8. 3.31	竹内 潔	任期満了	—	特任研究員
R8. 3.31	高森 太郎	任期満了	—	特任研究員
R8. 3.31	HUANG YIFEI	任期満了	特任准教授 国立大学法人東京科学大学	特任研究員
R8. 3.31	ドゥンキー 智也 ルカ	任期満了	助教 物質・環境系部門	特任研究員 物質・環境系部門

PERSONNEL

(特任研究員)

発令年月日	氏 名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
R8. 3.31	PRAMANIK SUPRITI	任期満了	—	特任研究員
R8. 3.31	飯田 康生	任期満了	研究開発員 国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構	特任研究員
R8. 4. 1	津坂 裕己	採用	特任研究員 基礎系部門 声原研究室	—
R8. 4. 1	MUHAMMAD IRFANDI	採用	特任研究員 基礎系部門 福谷研究室	—
R8. 4. 1	WANG KANGNIAN	採用	特任研究員 機械・生体系部門 北澤研究室	—
R8. 4. 1	ZENG HEDELE	採用	特任研究員 機械・生体系部門 松永研究室	—
R8. 4. 1	谷 佑太	採用	特任研究員 機械・生体系部門 竹内（昌）研究室	—
R8. 4. 1	根岸みどり	採用	特任研究員 機械・生体系部門 竹内（昌）研究室	—
R8. 4. 1	MERCADO MARIE ANGELYN TOLENTINO	採用	特任研究員 機械・生体系部門 巻研究室	技術補佐員(特定短時間)
R8. 4. 1	吉田 泰大	採用	特任研究員 機械・生体系部門 長谷川研究室	特別研究員独立行政法人 日本学術振興会
R8. 4. 1	波多野 雅	採用	特任研究員 情報・エレクトロニクス 系部門 佐藤（洋）研究室	—
R8. 4. 1	ZHU QINGZHEN	採用	特任研究員 物質・環境系部門 杉原研究室	—
R8. 4. 1	JIN YEONGROK	採用	特任研究員 物質・環境系部門 溝口研究室	—
R8. 4. 1	薛 世玲那	採用	特任研究員 物質・環境系部門 坪山研究室	—
R8. 4. 1	MA XIAO	採用	特任研究員 物質・環境系部門 石井研究室	—
R8. 4. 1	楊川 博久	採用	特任研究員 物質・環境系部門 石井研究室	—
R8. 4. 1	加藤 春奈	採用	特任研究員 人間・社会系部門 大原研究室	特別研究員 独立行政法人日本学術振興会
R8. 4. 1	ZHONG ZHIHUA	採用	特任研究員 人間・社会系部門 岩船研究室	特別研究員 独立行政法人日本学術振興会
R8. 4. 1	YANG YIFAN	採用	特任研究員 人間・社会系部門 竹内（渉）研究室	—
R8. 4. 1	植村 環	任命	特任研究員 人間・社会系部門 大口研究室	学術専門職員 機械・生体系部門
R8. 4.30	Loutchko Dimitry Urevic	退職	特任リサーチフェロー 国立大学法人 お茶の水女子大学	—
R8. 5. 1	金森 智士	採用	特任研究員 物質・環境系部門 杉原研究室	—
R8. 5. 1	土屋 和彦	採用	特任研究員 物質・環境系部門 南研究室	—
R8. 5.31	GUAN FENGBO	退職	—	特任研究員
R8. 5.31	LIANG YAOGAN	退職	—	特任研究員
R8. 5.10	FERNANDES RIKITHA SHARYL	採用	特任研究員 物質・環境系部門 南研究室	—
R8. 6. 1	ZHU YALING	採用	特任研究員 人間・社会系部門 酒井（雄）研究室	—

(学術専門職員)

発令年月日	氏 名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
R8. 3.31	宮崎 智子	定年退職	—	学術専門職員
R8. 3.31	大泉 智子	任期満了	学術専門職員（特定短時間）	学術専門職員
R8. 3.31	中村 浩二	任期満了	—	学術専門職員

(学術専門職員)

発令年月日	氏 名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
R8. 3.31	森 時彦	任期満了	—	学術専門職員
R8. 3.31	土屋 美奈	任期満了	学術専門職員 先端科学技術研究センター	学術専門職員
R8. 4. 1	新井 健次	採用	学術専門職員 流体テクノ室	—
R8. 4. 1	木幡 志保	採用	学術専門職員 次世代育成オフィス	—
R8. 4. 1	前田 智恵	採用	学術専門職員 物質・環境系部門 池内研究室	—

(再雇用)

発令年月日	氏 名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
R8. 4. 1	岩本 慶子	再雇用 任期更新	学術専門職員 機械・生体系部門 金（秀）研究室	—
R8. 4. 1	水谷 朋子	再雇用	特任研究員 情報・エレクトロニクス 系部門 小林（正）研究室	—
R8. 4. 1	吉本 英子	再雇用 任期更新	学術専門職員 人間・社会系部門 竹内（渉）研究室	—

生産技術研究所 技術系

(所内異動)

発令年月日	氏 名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
R8. 4. 1	池田 博一	昇任	技術専門員 試作工場	技術専門職員 試作工場
R8. 4. 1	浦井 勇輔	昇任	技術専門職員 試作工場	一般技術職員 試作工場
R8. 4. 1	大熊 健児	昇任	技術専門職員 機械・生体系部門 巻研究室	一般技術職員 機械・生体系部門
R8. 4. 1	片桐 俊彦	配置換	シニアエキスパート(技術) 基礎系部門 清田研究室	技術専門員 基礎系部門

(再雇用)

発令年月日	氏 名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
R8. 3.31	奥山 光作	再雇用 任期満了	—	一般技術職員 物質・環境系部門
R8. 4. 1	高野 早苗	再雇用 任期更新	一般技術職員 物質・環境系部門 藤岡研究室	—
R8. 4. 1	片倉 智	再雇用 任期更新	一般技術職員 基礎系部門 枝川研究室	—

生産技術研究所 事務系

(学内異動 (出))

発令年月日	氏 名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
R8. 4. 1	鈴木 雅裕	配置換	課長 人事部労務・勤務環境課	総務課 課長
R8. 4. 1	五十嵐征美	配置換	課長 社会連携部ディベロップメント課	経理課 課長
R8. 4. 1	加藤 康洋	昇任	神岡地区担当課長 宇宙線研究所	経理課 副課長（財務戦略担当）
R8. 4. 1	山田 雅之	配置換	係長 社会連携部社会連携推進課社会連携推進チーム	総務課係長（広報チーム）
R8. 4. 1	手塚 涼太	配置換	一般職員 農学部・農学生命科学系 研究科総務課人事チーム	総務課一般職員（研究総務チーム）
R8. 4. 1	坂本 舞花	配置換	一般職員 経営企画部国際戦略課国際戦略チーム	経理課一般職員（連携研究支援室企画チーム）
R8. 4. 1	廣谷 凛	配置換	一般職員 人事部人材育成課職員採用・研修チーム	総務課一般職員（総務チーム）
R8. 4. 1	比奈地聡子	昇任	上席係長 農学部・農学生命科学系 研究科総務課人事チーム	総務課係長（人事・厚生チーム）
R8. 4. 1	坂本 鮎香	配置換	一般職員 法学政治学研究科等会計チーム	経理課一般職員（予算執行チーム）
R8. 4. 1	岡部 友紀	配置換	上席係長 柏地区共通事務センター人事チーム	総務課上席係長（柏地区事務チーム）
R8. 4. 1	野田紗耶夏	配置換	一般職員 教育・学生支援部学生支援課学生生活チーム	総務課一般職員（人事・厚生チーム）
R8. 4. 1	酒泉 創	配置換	係長 財務部契約課集中調達チーム	経理課係長（連携研究支援室執行チーム）

PERSONNEL

(学内異動 (出))

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
R8. 4. 1	藤野 聖士	配置換	上席係長 低温センター事務室	経理課上席係長 (連携研究支援室執行チーム)
R8. 4. 1	佐々木友明	配置換	上席係長 工学系・情報理工学系等研究推進課受託研究チーム	経理課上席係長 (連携研究支援室企画チーム)
R8. 4. 1	大淵 岳	昇任	副事務長 (施設担当) 柏地区共通事務センター施設チーム	総務課上席係長 (施設チーム)
R8. 4. 1	田辺 慎一	配置換	上席係長 先端科学技術研究センター施設・安全チーム	総務課上席係長 (施設チーム)

(採用)

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
R8. 4. 1	深澤 美遥	採用	一般職員 総務課総務チーム	—
R8. 4. 1	馬場 成愛	採用	一般職員 総務課人事・厚生チーム	—
R8. 5. 1	本田 絵美	採用	経理課一般職員 (予算執行チーム)	一般職員 医学系研究科

(学内異動 (入))

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
R8. 4. 1	入江 宜孝	配置換	総務課 課長 研究環境調整室長	課長 医学部附属病院人事労務課
R8. 4. 1	寺内由紀子	昇任	経理課 課長 研究環境調整室副室長	上席係長 (会計担当) 東洋文化研究所総務チーム
R8. 4. 1	皿谷 帆南	配置換	総務課一般職員 (広報チーム)	一般職員 農学部・農学生命科学系研究科総務課研究支援チーム
R8. 4. 1	福島 里奈	配置換	総務課一般職員 (国際交流チーム)	一般職員 工学系・情報理工学系等総務課総務チーム
R8. 4. 1	倉持 美桜	配置換	総務課一般職員 (研究総務チーム)	一般職員 法学政治学研究科等庶務チーム
R8. 4. 1	堀内 多恵	配置換	経理課一般職員 (連携研究支援室企画チーム)	一般職員 理学系研究科等学務課教務チーム
R8. 4. 1	三枝木花音	配置換	総務課一般職員 (人事・厚生チーム)	一般職員 文学部・人文社会系研究科財務・研究支援チーム

(学内異動 (入))

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
R8. 4. 1	沓内絵里子	昇任	経理課係長 (予算執行チーム)	主任 財務部経理課資金運用チーム
R8. 4. 1	田中 明子	配置換	総務課上席係長 (柏地区事務チーム)	上席係長 薬学部・薬学系研究科庶務チーム
R8. 4. 1	澁谷 弘毅	配置換	経理課副課長 (研究推進担当)	副課長 医学部附属病院研究推進課臨床研究推進チーム
R8. 4. 1	大原 周悟	配置換	経理課一般職員 (連携研究支援室執行チーム)	一般職員 医学部附属病院医療運営課国際・予防医学チーム (国際・予防医学担当)
R8. 4. 1	清水 珠子	配置換	経理課一般職員 (連携研究支援室執行チーム)	一般職員 資産活用推進部資産活用課資産活用チーム
R8. 4. 1	大溝真由美	昇任	経理課上席係長 (連携研究支援室企画チーム)	係長 工学系・情報理工学系等研究推進課受託研究チーム
R8. 4. 1	遠藤 賛	配置換	総務課係長 (研究環境調整室施設チーム)	係長 施設部保全課建築設備保全チーム
R8. 4. 1	荒井 健悟	配置換	総務課副課長 (研究環境調整室施設チーム)	課長補佐 東京外国語大学総務企画部施設企画課

(所内異動)

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
R8. 4. 1	山本 太	勤務換	経理課副課長 (財務戦略担当)	経理課副課長 (研究推進担当) 連携研究支援室長
R8. 4. 1	山縣真依子	昇任	経理課上席係長 (連携研究支援室執行チーム)	経理課係長 (連携研究支援室執行チーム)
R8. 4. 1	風早 瑠美	昇任	経理課係長 (予算執行チーム)	経理課主任 (予算執行チーム)
R8. 4. 1	菅野 高利	配置換	総務課シニアスタッフ (施設) (施設チーム)	総務課上席係長 (施設チーム)

(再雇用)

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
R8. 4. 1	齊藤 尚子	再雇用 任期更新	総務課主事員 (研究総務チーム)	—

昇任・着任のご挨拶

人間・社会系部門 特任准教授 安田 浩保



4月1日付で人間・社会系部門に着任しました。生研では河川物理学研究室を立ち上げ、無人で広い範囲の流れを高密度に測る技術や、見えない河床を推定する深層学習の開発を進めます。これらを統合することで、流れの抵抗が小さくなる条件をはじめ、洪水時の河川の未発見の現象を捉え、その仕組みを理論とデータに基づいて解明するとともに、治水と環境保全を両立できる河川の設計法の開発を目指します。グローバル水文学研究グループの一員として、水害軽減に貢献したいと考えています。このたび生産技術研究所に着任できたことを大変光栄に思います。どうぞよろしくお願いいたします。

基礎系部門 特任講師 美谷 周二朗



4月1日付で基礎系部門の特任講師に昇任いたしました。専門は「マイクロ相関流体工学」です。これまで助教として酒井啓司教授のもと液体物性の計測手法の開発に携わってまいりました。近年は、インクジェット液滴などの微小液体における表面・界面ダイナミクスの可視化による研究に取り組んでおります。今後は、よりマイクロな液体分子挙動の可視化や泡などの脆弱な構造体の系統的解析などを通して、液体の不思議に迫っていきたいと考えております。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

人間・社会系部門 講師 木野 佳音



4月1日付で、人間・社会系部門の講師に着任いたしました。2022年に本学 理学系研究科地球惑星科学専攻にて博士号を取得し、今年3月までは工学系研究科社会基盤学専攻で助教を務めておりました。気候変動とそれに伴う極端気象の激甚化を正確に予測するためには、気候・気象モデルが現在とは大気中二酸化炭素濃度の異なる過去の気候状態を適切に再現できるかを検証することが不可欠です。気候・気象モデルを用いて、数万年以上前の地質時代に断片的に残された記録と整合的な気候・気象を復元し、気候変動の将来予測の高度化と、対策・適応策の策定に貢献してまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

機械・生体系部門 特任講師 小松 洋介



4月1日付で、機械・生体系部門の特任講師として着任いたしました。高温で作動する固体酸化物形セルを中心に、燃料電池・電解セルの運転を目指した電極開発や、電気化学セルを用いたシステム創成に取り組んでおります。研究を通じて、社会におけるエネルギー利用の高度化に貢献していきたいと考えております。今後ともどうぞよろしくお願い致します。

A W A R D S

■受賞 教員

所属・研究室	職・氏名	受賞名・機関	受賞項目	受賞日
情報・エレクトロニクス系部門 野村研究室	教授 野村 政宏	第47回解説論文賞受賞 公益社団法人応用物理学会	ユビキタスフォノンエンジニアリング ナノスケールでのフォノン熱輸送の理解と制御が開く応用	2026.3.15
機械・生体系部門 吉岡研究室	高口 順一 (ベッコフオートメーション株式会社) 教授 吉岡 勇人	2025年度精密工学会高城賞 公益社団法人精密工学会	Estimation method of cutting forces and vibration by using frequency separation of acceleration sensor signals during milling process with small ball end mills	2026.3.18
機械・生体系部門 吉岡研究室	教授 吉岡 勇人 安藤 知治 (オークマ株式会社) 准教授 林 晃生 (金沢工業大学) 准教授 河野 大輔 (京都大学)	2026年度精密工学会春季大会学術講演会ベストオーガナイザー賞 公益社団法人精密工学会	OS：工作機械の高速高精度化	2026.3.19
基礎系部門 中埜研究室	助教 松川 和人	日本建築学会奨励賞 日本建築学会	津波漂流船舶を模した鋼棒の衝突を受ける鉄筋コンクリート造柱の最大応答変形の推定に関する研究	2026.4.15
情報・エレクトロニクス系部門 野村研究室	教授 野村 政宏 特任准教授 コウ シン	文部科学大臣表彰 科学技術賞 文部科学省	フォノンの特殊輸送特性を用いた革新的熱機能デバイスの研究	2026.4.15
機械・生体系部門 横田研究室	測地学オープンデータプロジェクトグループ 石川 直史 (海上保安大学校) 太田 雄策 (東北大学) 落 唯史 (産業技術総合研究所) 関戸 衛 (情報通信研究機構) 瀧口 博士 (宇宙航空研究開発機構) 三井 雄太 (静岡大学) 准教授 横田 裕輔	日本測地学会賞第26回坪井賞(団体賞) 日本測地学会	測地学オープンデータ戦略と測地データへのDOI付与の推進	2026.4.20
物質・環境系部門 南研究室	准教授 南 豪	Chartered Scientist Royal Society of Chemistry	The application is sound highlighting clearly the achievements of the applicant. Not only is he at the forefront of his field of chemosensing, he also takes time to educate and guide the next generations of researchers.	2026.5.13
情報・エレクトロニクス系部門 高宮研究室	特任研究員 LIANG YAOGAN 博士課程2年 鋤田 陽平 講師 井出 倫晃 教授 高宮 真	研究会優秀若手講演賞 電子情報通信学会 集積回路研究専門委員会	Closed-Loop Active Gate Driver IC With Integrated Sensing Functions for IGBTs	2026.5.14
人間・社会系部門 林(憲)研究室	准教授 林 憲吾 教授 山名 善之 (東京理科大学) 准教授 Johannes Widodo (シンガポール国立大学) 本学名誉教授 村松 伸	2026年日本建築学会教育賞(教育貢献) 日本建築学会	東南アジア近現代建築保全促進のための国際教育貢献(2015-2024):国際ワークショップ型教育プログラムの構築と教材刊行	2026.5.29
人間・社会系部門 林(憲)研究室	本学名誉教授 村松 伸 准教授 Johannes Widodo (シンガポール国立大学) 教授 山名 善之 (東京理科大学) 准教授 林 憲吾	2026年日本建築学会賞(業績) 日本建築学会	「東南アジア近現代建築総覧」の編集活動(2015-2024)	2026.5.29
人間・社会系部門 山崎研究室	准教授 山崎 大	Outstanding Reviewer Award AMERICAN GEOPHYSICAL UNION	OUTSTANDING SERVICE TO THE AUTHORS AND READERS OF WATER RESOURCES RESEARCH	2026.6.2
情報・エレクトロニクス系部門 高宮研究室	教授 高宮 真 講師 井出 倫晃 特任研究員 LIANG YAOGAN 修士学生2年 LIU TAIYU	the Third Prize Paper Award The 2026 International Power Electronics Conference IPEC-Nagasaki 2026 - ECCE ASIA -	Fully Integrated Active Gate Driver IC With Real-Time Timing Control of Drive-Strength Switching Using Gate Current Sensing for SiC MOSFETs	2026.6.4
機械・生体系部門 大島研究室	教授 大島 まり	2025年度 第30回 功績賞 一般社団法人 日本機械学会バイオエンジニアリング部門	論文多数	2026.6.13
機械・生体系部門 ベニンントン研究室	助教 左右田智美 特任研究員 ディアズ ヘマル 木内 笙太 (フリーランスデザイナー)	Core77 Design Awards 2026 Notable Core77	Coral Rescue - Conserve Together -	2026.6.17

●受賞決定時の職名(学年)を記載しています。

■受賞 学生

所属・研究室	職・氏名	受賞名・機関	受賞項目	受賞日
機械・生体系部門 山川研究室	博士課程2年 李 自維 博士課程3年 GUO Qitong 博士課程3年 JIA Ruoyu 助教 平野 正浩 准教授 山川 雄司	SI2025 優秀講演賞 第26回公益社団法人 計測自動制御学会 システムインテグレーション部門講演会	SG-NLOS Risk: Semantic-Guided Collision-Risk Estimation for Ego Vehicles and NLOS Targets	2026.2.16

A W A R D S

所属・研究室	職・氏名	受賞名・機関	受賞項目	受賞日
情報・エレクトロニクス系部門 佐藤（洋）研究室	博士課程 3年 大川 武彦	育志賞 独立行政法人 日本学術振興会	学業成績	2026. 3. 3
物質・環境系部門 南研究室	博士課程 2年 張 亦婧	AIP Network Laboratory Special Award Japan Science and Technology Agency	For outstanding research achievements in the FY2025 AIP Challenge Program	2026. 3. 3
物質・環境系部門 小倉研究室	修士課程 2年 木村 水咲	2025 年度 AICE Award 成果表彰 自動車用内燃機関技術研究組合（AICE）	マイクロ波加熱を用いた NOx 直接分解触媒システムの研究	2026. 3. 5
人間・社会系部門 林（憲）研究室	修士課程 2年 富井 治弥	トウキョウ建築コレクション 全国修士論文展 岩本馨賞 トウキョウ建築コレクション 2026 実行委員会	高度経済成長の基盤としての「耐爆」－戦時技術からの継承・派生・展開－	2026. 3. 6
情報・エレクトロニクス系部門 佐藤（洋）研究室	修士課程 2年 前田 優樹	IEICE 学術奨励賞 一般社団法人 電子情報通信学会	Human-Object Interaction Transformer の拡張による手－操作物体－作用物体の検出	2026. 3.11
機械・生体系部門 巻研究室	博士課程 3年 千 歳和	新領域創成科学研究科長賞（博士） 東京大学大学院新領域創成科学研究科	Inspection of Mooring Lines of Floating Structures with an Autonomous Underwater Vehicle	2026. 3.18
情報・エレクトロニクス系部門 佐藤（洋）研究室	博士課程 3年 大川 武彦	東京大学大学院情報理工学系研究科 研究科長賞（研究業績） 東京大学大学院情報理工学系研究科	学修に努め顕著な業績	2026. 3.24
情報・エレクトロニクス系部門 佐藤（洋）研究室	博士課程 3年 大川 武彦	令和七年度電子情報学専攻長賞 東京大学大学院情報理工学系研究科 電子情報学専攻	インタラクションにおける手の視覚的理解	2026. 3.24
情報・エレクトロニクス系部門 吉永研究室	修士課程 2年 周 宇涵	令和七年度電子情報学専攻長賞 東京大学大学院情報理工学系研究科 電子情報学専攻	Evaluating Automatic Subtitling in Diverse Target Languages: Development of Large-Scale Corpus and Evaluation Metrics	2026. 3.24
機械・生体系部門 巻研究室	修士課程 2年 坂井 基起	ABS 2026 Best Thesis Award ABS Japan	水中ロボットによる海底設置物の自律把持手法	2026. 3.24
基礎系部門 町田研究室	修士課程 2年 西村 有紗	東京大学大学院工学系研究科長賞（研究）（修士） 東京大学大学院工学系研究科	遷移金属ダイカルコゲナイド（ ReX_2 ; $X=\text{S}, \text{Se}$ ）を用いた共鳴トンネル素子：負性微分抵抗の実証と電気的発振の実現	2026. 3.24
物質・環境系部門 塚本研究室	修士課程 2年 坂本凌太郎	藤嶋賞 東京大学大学院工学系研究科応用化学専攻	多価カチオン性のコアを持つカプセル型高分子を用いたアニオンの精密集積	2026. 3.25
物質・環境系部門 南研究室	博士課程 1年 Jeric Flores	CSJ Student Presentation Award 2026 公益社団法人 日本化学会	Self-Assembled Optical Chemosensor Array for the Identification of Counterfeited Anti-Malarial Drugs	2026. 4.17
機械・生体系部門 金（範）研究室	博士課程 3年 李 佳昊 助教 朴 鍾湔 教授 金 範竣	Best Student Paper Award IEEE NEMS 2026	Directional Ice Templating as a Manufacturing Strategy for Bioinspired Tubular-Porous PLA Microneedles for Minimally Invasive ISF Sampling	2026. 4.20
情報・エレクトロニクス系部門 松久研究室	修士課程 2年 平岡 愛姫	Best Poster Award WINNER 2026 MRS Spring Meeting & Exhibit	A high-current density polymer diode for wireless wearable applications	2026. 4.29
物質・環境系部門 塚本研究室	修士課程 2年 田辺 弓弦	1、Young Best Presentation Award 2、ACS Publications Outstanding Poster Award ナノ学会, American Chemical Society	多価カチオン性高分子カプセルを用いた量論的精密ゲスト集積手法の開発	2026. 5. 2
情報・エレクトロニクス系部門 高宮研究室	修士課程 2年 王 偉嘉 特任研究員 梁 耀滄 博士課程 2年 鋤田 陽平 博士課程 Che-An Cheng 教授 Qiang Li (Center for Power Electronics Systems (CPES), Virginia Polytechnic Institute and State University) 講師 井出 倫湜 教授 高宮 真	LSI とシステムのワークショップ IEEE SSCS Kansai Chapter Academic Research Award IEEE Solid-State Circuits Society Kansai Chapter Chair Hiroshi Kawaguchi	Stop-and-Go Active Gate Driver IC With Digitally Programmable Gate Current and 223-ps-Resolution Timing for SiC MOSFETs	2026. 5.14
情報・エレクトロニクス系部門 高宮研究室	博士課程 1年 福永 博生 修士課程 2年 Wejia Wang 修士課程 Adhisira Madhyasta Naradhiga 教授 Qiang Li (Virginia Polytechnic Institute and State University) 講師 井出 倫湜 教授 高宮 真	LSI とシステムのワークショップ 優秀ポスター賞 電子情報通信学会 集積回路研究専門委員会	Half-Bridge Resonant Gate Driver IC With Digitally Controlled Internal Signal Timing for High-Frequency GaN-Based Buck Converters	2026. 5.14
情報・エレクトロニクス系部門 高宮研究室	博士課程 2年 鋤田 陽平 修士課程 2年 塚原 大地 長江 功貴 近藤 弘規 永吉 謙一 (株式会社豊田自動織機) 講師 井出 倫湜 教授 高宮 真	LSI とシステムのワークショップ 最優秀ポスター賞（学生部門） 電子情報通信学会 集積回路研究専門委員会	1kW 絶縁型 DC-DC コンバータにおける損失と EMI のトレードオフのアクティブゲート駆動による打破の実証	2026. 5.15
基礎系部門 芦原研究室	修士課程 2年 花澤 萌子	2026 年第 73 回応用物理学会春季学術講演会 応用物理学会 Poster Award 公益社団法人 応用物理学会	ZGP 結晶を用いた OPO による中赤外パルス発生	2026. 5.15
人間・社会系部門 川添研究室	修士課程 1年 莊司 涼香	第 35 回 JIA 東京都学生卒業設計コンクール 2026 古谷賞 JIA 東京都学生デザイン実行委員会	雨遅延装置 列錐廊	2026. 5.23
情報・エレクトロニクス系部門 松久研究室	修士課程 2年 坂下 直輝	M&BE12 Student Poster Award 12th International Conference on Molecular Electronics and Bioelectronics	Stretchable Electrochemical Transistors with Self-Doped Conductive Polymer	2026. 6.17

●受賞決定時の職名（学年）を記載しています。

AWARDS

■受賞のこトバ

機械・生体系部門
山川研究室 博士課程2年
李 自維



I am deeply honored to receive the SI2025 Excellent Presentation Award for our presentation, "SG-NLOS Risk: Semantic-Guided Collision-Risk Estimation for Ego Vehicles and NLOS Targets." This research aims to improve collision-risk estimation for autonomous driving in challenging non-line-of-sight scenarios by integrating semantic understanding with sensing information. I would like to express my sincere gratitude to my supervisors and lab members for their invaluable guidance and support throughout this work. This award is a great encouragement to me, and I hope to continue advancing research on robust perception and risk estimation to help make autonomous systems safer and more reliable in real-world environments.

情報・エレクトロニクス系部門
佐藤(洋)研究室 博士課程3年
大川 武彦



この度は、日本学術振興会育志賞、および本学大学院情報理工学系研究科長賞(研究業績)、ならびに電子情報学専攻長賞を賜り、誠に光栄に存じます。博士課程では「インタラクションにおける手の視覚的理解」をテーマに、人間の手と物体の関わりをデジタル化する研究に取り組んでまいりました。また、アメリカ・スイスでの研究留学や国際会議での発表、ワークショップの主催等を通じて学術コミュニティに貢献し、国際的な視野を養うことができました。全学術分野から選出される育志賞において、情報理工系から唯一選出されたこと、さらに所属研究科・専攻から高い評価をいただいたことは大変誇りに思います。主指導教員の佐藤洋一教授をはじめ、研究室の皆様の多大なるご支援に心より感謝申し上げます。今後は、博士課程で培った知見を基に、AI・ロボティクス分野という新たな学際研究領域にも挑戦し、社会課題の解決と学術振興に貢献できる研究者として、さらなる飛躍を目指して精進してまいります。

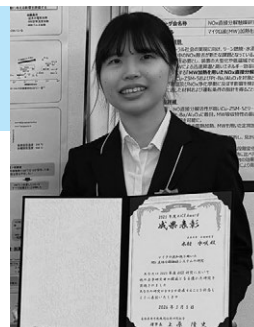


物質・環境系部門
南研究室 博士課程2年
張 亦婧



このたびは、AIP Network Laboratory Special Awardという栄誉ある賞をいただき、大変光栄に存じます。受賞対象となった研究では、身近な材料である紙基板上に有機トランジスタを作製し、水環境下で駆動する使い捨て可能な化学センサーデバイスを開発しました。本研究を進めるにあたり、指導教員の南豪准教授をはじめ、研究室の皆様にも深く感謝申し上げます。今後もより一層努力し、研究に励んでまいります。

物質・環境系部門
小倉研究室 修士課程2年
木村 水咲



この度、2025年度AICE Awardにて、成果表彰を受賞いたしました。本研究では、マイクロ波のパルス加熱を用いて急速に触媒を加熱し、高温と低温を繰り返すことで、吸着と脱離または分解を高い応答で切り替えることが可能となり、一時的に通常加熱や定常温度のマイクロ波加熱より高いNOx浄化率を達成したことを報告しました。今回の受賞に際し、ご指導いただきました小倉賢教授をはじめ、研究グループの皆様、研究室の皆様に心より感謝申し上げます。

人間・社会系部門
林(憲)研究室 修士課程2年
富井 治弥



代官山ヒルサイドテラスにて開催された「トウキョウ建築コレクション論文展」にて、審査委員賞を頂きました。出展テーマは「爆発に耐える建築技術と近代社会との関わり」でした。研究においては、生研の学際的な刺激に影響を受けました。林憲吾准教授や秘書の熊谷祐美子さんをはじめ、生研のサポートに感謝致します。

情報・エレクトロニクス系部門
佐藤(洋)研究室 修士課程2年
前田 優樹



このたびは電子情報通信学会 学術奨励賞をいただき、大変光栄に存じます。本研究は、修士課程在籍中に取り組んだものです。研究を進めるにあたり、終始丁寧なご指導をいただきました佐藤洋一教授、古田諒助教(当時)に心より感謝申し上げます。また、研究生活を共にし支えてくださった大川武彦さんをはじめ研究室の皆様にも深く御礼申し上げます。佐藤研究室で培った経験を糧に、今後も社会に貢献できる研究・開発に邁進してまいります。

機械・生体系部門
巻研究室 博士課程3年
千 歳和



この度は、博士論文で新領域創成科学研究科長賞をいただき、大変光栄に思います。未熟な私を熱心にご指導くださった先生方や、共に切磋琢磨し合える環境を築いてくれた研究室の皆様には、心から感謝しています。生産技術研究所での貴重な学びを糧に、これからも未知の領域に挑む探究心を忘れず、研究成果を社会に還元できるよう、より一層の努力を続けていきたいと考えています。

A W A R D S

情報・エレクトロニクス系部門 吉永研究室 修士課程2年 周 宇涵

この度は電子情報学専攻長賞を受賞し、大変光栄に存じます。本研究では、アジア言語を含む大規模コーパスおよび言語非依存の評価指標からなる、多様な目的言語における自動字幕生成の研究基盤を構築しました。本受賞に際しまして、日頃からご指導いただいている吉永直樹准教授をはじめ、研究室の皆様にご心より御礼申し上げます。



物質・環境系部門 南研究室 博士課程1年 Jeric Flores

I received the Student Presentation Award for my talk at the 106th CSJ Annual Meeting, held from March 17-20, 2026, at Nihon University. I presented my work entitled, "Self-Assembled Optical Chemosensor Array for the Identification of Counterfeited Anti-Malarial Drugs". This research aims to distinguish authentic antimalarial drugs from counterfeit ones by developing a chemosensor array based on cyclodextrin-dye assemblies. The system is designed to discriminate among different antimalarials, enabling their classification and quantification. I would like to express my sincere gratitude to Associate Professor Tsuyoshi Minami for his guidance, as well as to everyone in the laboratory for their support.



機械・生体系部門 巻研究室 修士課程2年 坂井 基起

この度、修士論文「水中ロボットによる海底設置物の自律把持手法」に対し、ABS 2026 Best Thesis Awardを受賞いたしました。本論文では、水中ロボットを用いた海底設置物の自律把持手法について、水中環境下における対象物の認識・測位に基づく自己位置推定、また流れ等の外乱にロバストな把持動作に関する研究を行い、水槽・実海域における実機実験に関する成果をまとめました。本受賞にあたり、ご指導を賜りました巻俊宏准教授をはじめ、日ごろより研究を支えてくださった皆様に心より感謝申し上げます。



機械・生体系部門 金（範）研究室 博士課程3年 李 佳昊

I am deeply honored to receive the Best Student Paper Award at the IEEE NEMS 2026 conference. This research focuses on the design and fabrication of bioinspired porous PLA microneedles with vertically aligned tubular structures from the perspective of porous structure engineering. We achieved sufficient mechanical strength while significantly enhancing absorption performance. I would like to sincerely thank my supervisor, Prof. Beomjoon Kim, for his valuable guidance and continuous support. I also extend my heartfelt gratitude to all members of our laboratory for their constructive discussions and encouragement. This award motivates me to further advance my research in microneedle-based sensing systems and to contribute to the development of minimally invasive diagnostic technologies.



基礎系部門 町田研究室 修士課程2年 西村 有紗

この度修士課程の研究において、工学系研究科長賞を受賞しました。本研究では ReX_2 ($\text{X}=\text{S}, \text{Se}$)を用いたファンデルワールス接合による共鳴トンネルデバイスを作成し、負性微分抵抗を実証しました。町田友樹教授、守谷頼特准教授、木下圭助教をはじめとする、研究を支えて下さった全ての皆様に感謝致します。今後は博士課程において、本研究をさらに発展させるべく、より一層精進してまいります。



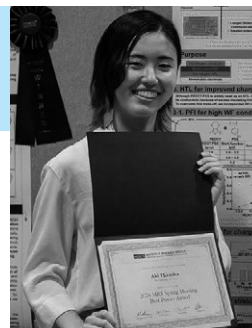
物質・環境系部門 塚本研究室 修士課程2年 坂本 凌太郎

この度、2025年度工学系研究科応用化学専攻の修士論文発表会にて、藤嶋賞に選出いただきました。本発表では、新たな金属クラスター合成手法の確立を志向し、高価カチオン性の単分子ミセル型のカプセル高分子の新規合成およびそのアニオン性ゲスト集積能について報告いたしました。本受賞にあたり、日頃よりご指導いただきました塚本孝政講師をはじめ、研究室の皆様にご心より感謝申し上げます。



情報・エレクトロニクス系部門 松久研究室 修士課程2年 平岡 愛姫

2026 MRS Spring Meeting & Exhibitにおいて、Best Poster Award WINNERを受賞いたしましたことを、大変光栄に存じます。本研究では無線給電型ウェアラブルデバイスへの応用を目指し、高電流密度で動作する伸縮性有機ダイオードについて報告しました。本研究を進めるにあたり、日頃よりご指導いただいている松久直司准教授をはじめ、共同研究者、研究室の皆様にご深く感謝申し上げます。今回の受賞を励みに、今後はGHz帯で動作可能なダイオードの実現を目指して研究を発展させてまいります。



A W A R D S

物質・環境系部門
塚本研究室 修士課程2年
田辺 弓弦

この度、ナノ学会第24回大会において、Young Best Presentation Award およびACS Publications Outstanding Poster Awardを受賞いたしました。本発表では、多価カチオン性高分子カプセルの新規開発と、これを用いた量論的精密ゲスト集積に関する研究成果を報告いたしました。本受賞に際しまして、日頃よりご指導いただいております塚本孝政講師をはじめ、塚本研究室の皆様深く感謝申し上げます。



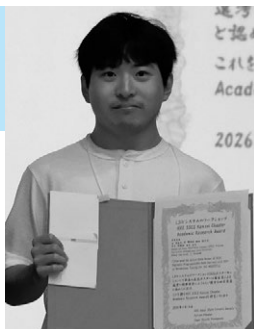
基礎系部門
芦原研究室 修士課程2年
花澤 萌子

この度、第73回応用物理学会春季学術講演会にてPoster Awardを受賞いたしました。本研究は、振動分光応用を見据えて、中赤外広帯域コヒーレント光源の開発を目指すものであり、一定の成果は見られたものの、未だ先は長いと考えております。芦原聡教授、森近一貴助教をはじめとする研究を支えてくださったすべての皆様に心より感謝申し上げます。今後も研究分野のさらなる発展に貢献できますよう研鑽を重ねてまいります。



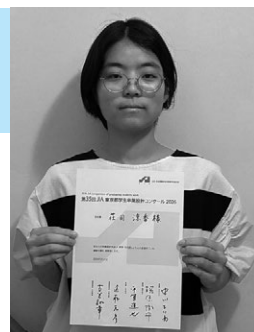
情報・エレクトロニクス系部門
高宮研究室 修士課程2年
王 偉嘉

I am very honored and happy to receive the LSI and System Workshop IEEE SSCS Kansai Chapter Academic Research Award. This award means a lot to me and is a recognition of my research journey since entering the master's program. I would like to sincerely express my gratitude to my professor, Takamiya Makoto, for his patient guidance and continuous support, as well as to my lab senpai for their kind help and encouragement to me. This award motivates me to continue improving myself in this field, and I hope to be good enough to live up to expectations from those who have supported me along the way.



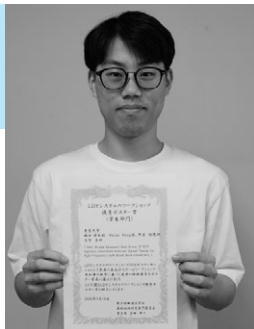
人間・社会系部門
川添研究室 修士課程1年
莊司 涼香

この度、第35回JIA東京都学生卒業設計コンクール2026において、古谷賞をいただきました。賞をいただいた卒業制作の「雨遅延装置 列錐廊」は、都市化によって失われた雨の時間を取り戻すための装置としての建築です。ご指導いただいた本学千葉学教授、川添善行准教授をはじめ、支えてくださった皆様に感謝申し上げます。



情報・エレクトロニクス系部門
高宮研究室 博士課程1年
福永 博生

この度、LSIとシステムのワークショップにおいて、優秀ポスター賞(学生部門)を受賞しました。本研究では、小型化する電源回路における損失の課題について、実用性を高める機能を集積化した損失を削減する回路について報告しました。指導教官である高宮真教授をはじめ、ご指導・ご協力いただいた皆様に深く感謝申し上げます。今後はさらなる高効率化と実用化に向けて研究を発展させていきたいと考えています。



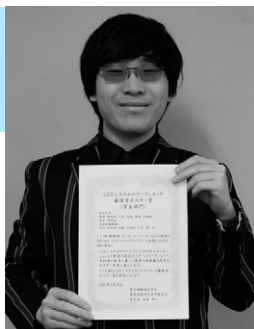
情報・エレクトロニクス系部門
松久研究室 修士課程2年
坂下 直輝

このような形で日頃取り組んできた研究を評価していただき、大変嬉しく思います。日頃よりご指導を賜っております松久直司准教授、そして研究室の皆様へ、深く感謝申し上げます。今後はこの研究をさらに発展させ、伸縮可能な電気化学トランジスタアレイの実現・生体実証に向けて、日々邁進してまいります。



情報・エレクトロニクス系部門
高宮研究室 博士課程2年
鋤田 陽平

この度は大変光栄なことに、LSIとシステムのワークショップ2026で最優秀ポスター賞を受賞いたしました。指導教官の高宮真教授をはじめ、共同研究先の株式会社豊田自動織機の皆様にこの場をお借りしてお礼申し上げます。今後も電力変換器の低損失、低ノイズ化の実現に向けて研究に邁進していく所存でございます。



マクロン大統領 来訪

4月1日（水）、日本を公式訪問中のフランスのマクロン大統領が、本所を来訪されました。

本来訪は、科学技術分野における国際パートナーシップ強化の一環として、日仏共同研究の好事例をアピールするため、在日フランス大使館を通じてLIMMS/CNRS-IIS（IRL 2820）（以下、LIMMS）への働きかけがあり実現したものです。

LIMMSは、フランス国立科学研究センター（CNRS）と生産技術研究所の共同研究ユニットとして1995年に設立されました。以来、470名を超えるCNRS常任研究員やポスドク研究員、博士学生などを受け入れ、マイクロ・ナノ技術、バイオ応用マイクロシステム、最先端集積化マイクロシステムを融合した最先端の学際的研究を推進しています。また、2014年からはフランス・リール市に拠点を置く研究プロジェクトを展開し、バイオMEMS技術を臨床に適用して、がん等の疾病治療や原因解明を目指す共同研究を進めてきました。今回の来訪にあわせ、LIMMSを含む日仏共同研究チームは、成果である「DNAデータ暗号化ストレージ」を披露し、データをDNA配列に変換して暗号化、安全に通信・復元するという世界初のデモンストレーションに成功しました。

マクロン大統領は、本学 藤井 輝夫 総長、本所 年吉 洋 所長とともに、LIMMSをはじめ所内を視察され、最先端の研究設備や研究内容の説明に熱心に耳を傾け、現場の研究者や学生と直接対話を行い、日仏間における学術・研究交流への期待を述べられました。



■常務委員会および各種委員会委員長一覧

令和8年度常務委員会および各委員会委員長は下記のとおりです。

令和8年度常務委員会

委員 令和8年4月1日改選（任期1年）

所 属	氏 名
議 長	年吉 洋
基礎系	芦原 聡
〃	羽田野直道
機械・生体系	吉岡 勇人
〃	金 範竣
情報・エレクトロニクス系	野村 政宏
〃	小林 徹也
物質・環境系	溝口 照康
〃	池内与志穂
人間・社会系	腰原 幹雄
〃	竹内 渉

令和8年度各種委員会委員長

役 職	氏 名
企画運営室長	竹内 渉
リサーチ・マネジメント・オフィス室長	野村 政宏
次世代育成オフィス室長	川越 至桜
広報室長	松山 桃世
国際・産学連携室長	岡部 洋二
社会連携・史料室長	川添 善行
駒場コモンズラボ長	溝口 照康
特別研究審議委員長	中埜 良昭
キャンパス公開実行委員長	松山 桃世
キャンパス・施設委員長	大口 敬
キャンパス・施設部会長	大岡 龍三
スペース管理専門部会長	小倉 賢
施設管理専門部会長	大岡 龍三
実験施設運営管理専門部会長	小倉 賢
クリーンルーム設備管理運営分科会主査	岩本 敏
水槽設備管理分科会主査	林 昌奎
次世代モビリティ研究設備管理分科会主査	中野 公彦
振動台及び静的载荷装置等関連設備管理分科会主査	川口 健一
駒場分析コア分科会主査	溝口 照康
建築都市環境実験関連設備管理分科会主査	大岡 龍三
安全管理委員長	年吉 洋
防災・安全部会長	砂田 祐輔
防災専門部会長	清田 隆
BCM推進ワーキンググループ長	清田 隆
環境安全管理専門部会長	砂田 祐輔
環境安全管理室長	工藤 一秋
バイオサイエンス安全専門部会長	池内与志穂
放射線安全専門部会長	枝川 圭一
遺伝子組換え生物等安全委員長	金 範竣
動物実験委員長	金 範竣
研究用微生物委員長	金 範竣
ユーティリティ委員長	溝口 照康
情報倫理審査会主査	高橋 琢二
大規模実験高度解析推進基盤運営会議委員長	北澤 大輔
価値創造デザイン推進基盤運営会議委員長	今井公太郎
情報委員長	豊田 正史
データベース部会長	豊田 正史
情報セキュリティ部会長	新野 俊樹
利益相反アドバイザー機関委員長	町田 友樹
知的財産室長	白樫 了
厚生健康委員長	河野 崇
技術職員等研修委員長	八木 俊介
予算委員長	福谷 克之
教育・学務委員長	梅野 宜崇
技術部連絡会議長	年吉 洋
レビュー制度委員長	酒井 啓司

シュトゥットガルトで過ごした3ヶ月

機械・生体系部門 横田 裕輔 研究室 博士課程2年 吉住 優憧

2025年11月から2026年2月までの3ヶ月間、ドイツシュトゥットガルト大学のInstitute of Navigation (INS) に訪問研究員として滞在しました。INSは、衛星測位や慣性センサなどを組み合わせた航法システムに関する研究を行う研究所です。航空宇宙分野や測地分野との関わりも深く、解析手法やセンサ開発から、ドローンやロボットを用いた応用研究まで、基礎から実装に近いテーマを幅広く扱っている点が印象的でした。

現地の研究環境は、日本の研究室とは少し異なっていました。博士課程の学生も大学に雇用された研究スタッフに近い立場で、各自の研究に加えて、学生指導やプロジェクトにも関わっていました。また、個室や少人数の部屋で作業するスタイルが中心で、落ち着いて研究に取り組める環境でした。滞在中は受入教員と定期的に議論し、自分の研究を異なる視点から見直す貴重な機会となりました。

私生活では、初めての海外での一人暮らしでもあり、住居探し、自炊、交通機関の利用など、日々の生活そのものが新鮮でした。特に冬のシュトゥットガルトでは、街の中心に大規模なクリスマスマーケットが広がり、研究後に立ち寄る時間は大きな楽し

みでした。短い滞在ではありましたが、海外の研究環境を実際に体験し、英語で議論することへの抵抗も減りました。今後の研究生活を考える上でも、大きな刺激となる3ヶ月でした。



INSが入っている建物



シュトゥットガルト市街のクリスマスマーケットの様子

観ることからはじまるデザイン

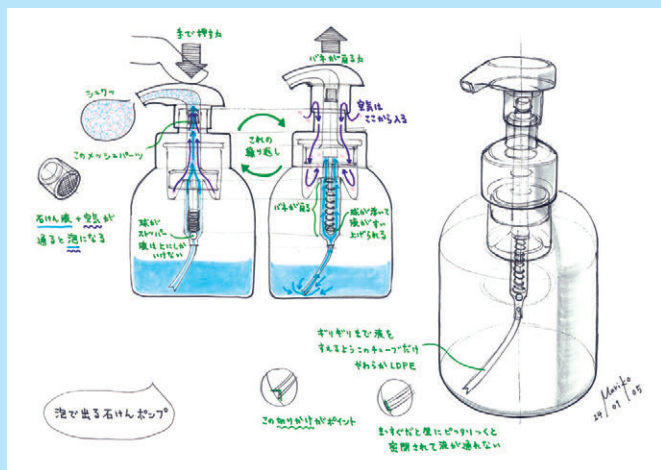
機械・生体系部門 准教授 檜垣 万里子

近年、人工知能（AI）の発展や設計ツールの高度化により、プロダクトデザインの創造プロセスそのものが変化しつつあります。形状の生成や可視化を迅速に行える手段が広がる一方で、デザインにおける「観ること」や「考えること」の役割が改めて問われています。

私は2018年より「観察スケッチ」と呼ばれる実践に取り組んできました。対象物を詳細に観察し、時に分解しながらスケッチを行い、気づいた点を言語化していく手法です。この実践において重要なのは、完成したスケッチの精度ではなく、観察と描写を往復する過程そのものにあります。描こうとすることで「理解していないこと」に気づき、再び対象を観る。この循環を通じて、形状や構造、さらにその背後にある設計意図への理解が深まっていきます。7週間のスケッチ演習授業では、この相互作用が顕著に現れました。最初は形状把握に苦労していた受講者も、観察と描写を往復する中で、対象の構造や関係性への理解を深めていきます。その結果として、スケッチの精度自体も向上していきました。同時に、観察の解像度が上がることで新たな細部に気づき、それがさらに描写を精緻化させるという循環が生じていました。描くことは単なる表現ではなく、対象を理解するための認知的行為であり、観ることと不可分に結びついています。

こうした「観察を通じて理解する」プロセスは、素材や制作活動においても重要です。例えば、セラミックスの3Dプリンティングに関する共同研究においては、材料特性や加工方法への理解と、スケッチや試作によるアイデア展開とを往復する「振り子」のようなプロセスを採用しています。セラミックスの密度感や熱特性、透光性といった触覚的・感覚的な性質と、生成的な形状設計とが結びつき、従来にはない造形や応用の可能性が見出されています。実際に手に取り重さや温度を体感できる造形物や、内部構造によって光や音の性質が変化する作品を展示という形で発表し、デジタル上の設計だけでは把握しきれない素材特有の価値を来場者に体験してもらいました。

一方で近年のAI技術は、こうしたプロセスに新たな層を加えつつあります。多様な形状案の生成や視覚化を高速に行う能力は有用ですが、その活用においては、人間が対象を理解していく過程との関係を慎重に設計する必要があります。例えば、AIによる提案を起点として再び観察的に解釈し直すなど、プロセスの中に位置づけることが重要になります。檜垣研究室では、人間の「観て理解する力」、素材に触れることで得られる感覚的理解、そして技術の「生成する力」を統合し、創造の質を高めるデザインプロセスのあり方を探求しています。



石けんポンプの観察スケッチ



セラミックス3Dプリンティングのプロトタイプ群

編集後記

今年のキャンパス公開は天気にも恵まれ、2日間開催となった2009年以降、過去最高の来場者数となりました。生研の魅力をよくの方に知っていただき、大変嬉しく思います。各研究室の研究レベルの高さと、研究所としてカバーする分野の広さが相乗効果を生み、子供から専門家まで楽しめる知の一大イベントになっているのでは、と自画自賛しております。2003年に学生として生研を訪れてから、はや20年以上経ちました。変わって

いくものもあれば、変わらず受け継がれていくものもある——今回退職される大島先生、川勝先生へのインタビューを通し、生研の魅力は「新しい研究を面白がること」だと改めて実感しました。面白がることは、研究の出发点であり、原動力でもあります。私自身も生研の一員として、この気風を大切にしながら、皆さまでに「面白い！」と感じてもらえる研究を進めていく所存です。

(巻 俊宏)

■東京大学 生産技術研究所 広報室
〒153-8505 東京都目黒区駒場 4-6-1
(03) 5452-6017 内線 56018、56864

編集スタッフ

松山 桃世・佐藤 洋一・林 憲吾・浅井 竜也
巻 俊宏・豊田 正史・塚本 孝政・楠井 美緒
岡田麻記子・長島 美絵・松田さつき・菊地 妙子
皿谷 帆南・米山 浩・木村真貴子

E-mail: iis-news@iis.u-tokyo.ac.jp

生研ホームページ

<https://www.iis.u-tokyo.ac.jp/>

生研ニュースはweb上でもご覧

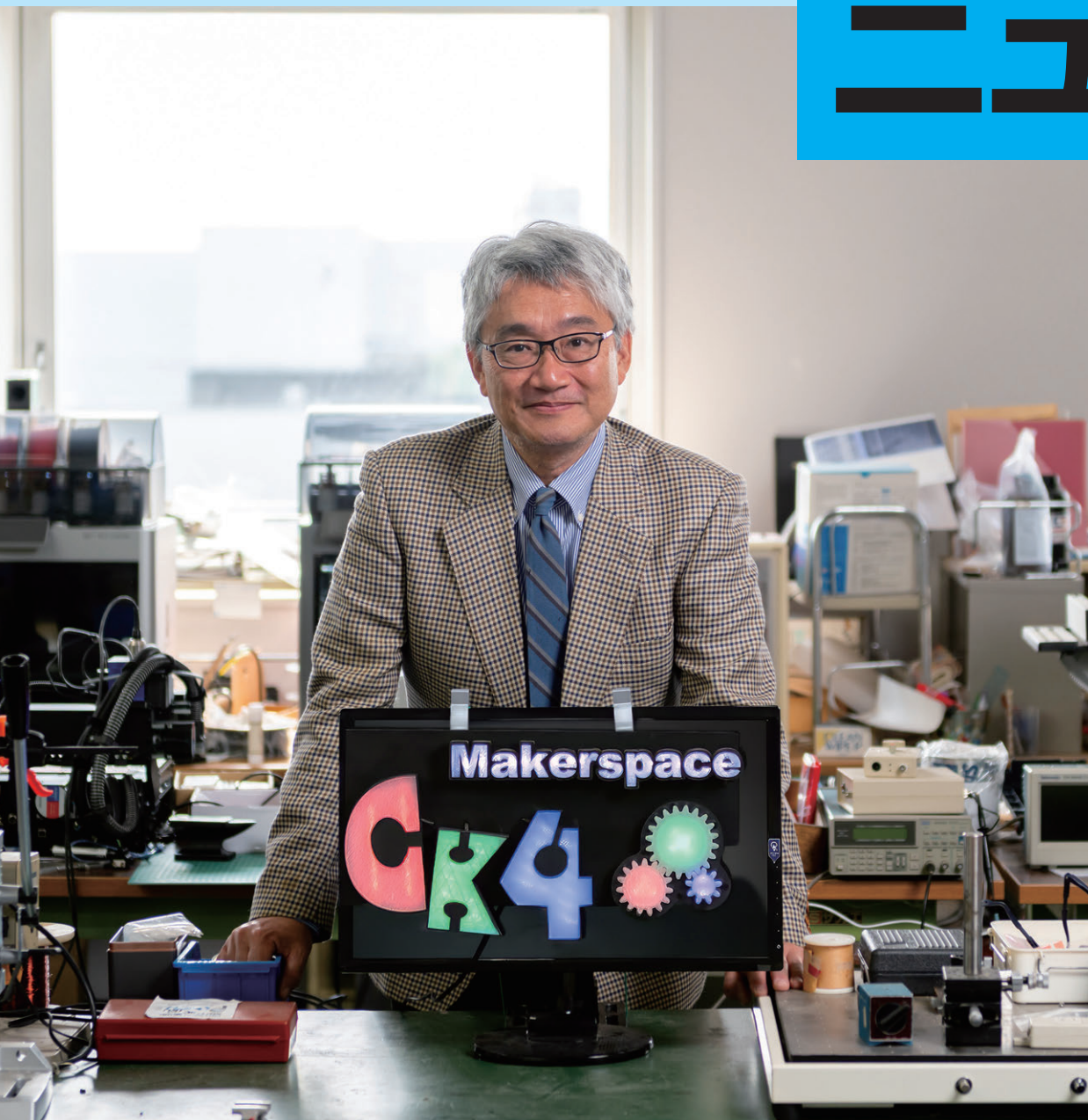
いただけます

https://www.iis.u-tokyo.ac.jp/ja/about/publication/seiken_news/



生研 ニュース

IIS NEWS
No.210
2026.7



●機械・生体系部門
教授
川勝 英樹

IIS
TODAY

今年度で退職を迎えられる川勝英樹教授は、1990年に東京大学大学院で博士号を取得されて以来、長年にわたり生産技術研究所で研究・教育に携わり、応用科学機器学の分野で独自の計測技術を確立してこられました。研究の原点は、大学院生のときに走査型トンネル顕微鏡 (STM) がノーベル物理学賞を受賞したニュースに触れ、「自分でも作れそうだ」と感じたことにあったといいます。当時取り組んでいた磁気浮上や位置決め機構の知識を活用して STM の自作に挑んだ経験が、その後の研究人生の出発点となりました。

生産技術研究所に着任されてからは、結晶格子を基準にした位置決めや、摺動面の挙動の原子オーダーの可視化、高周波カンチレバーを用いた原子間力顕微鏡 (AFM) の開発を進め、「測れないものを測れるようにする」研究を一貫して推進されました。その象徴が、原子や表面状態の違いを RGB の色で表す「カラー AFM」です。

白黒像だけでは十分に捉えきれなかった情報を、複数の物理パラメータから色鮮やかに表現することで、表面の違いをより直感的に理解できるようにしました。さらに近年は、生殖補助医療において精子と卵子の間に働く力の定量化にも挑み、生命現象の理解に向けた応用研究に取り組まれています。

また、電子工作を中心とした学生・職員工房「キャンブこまば IV」にも力を注ぎ、学生が自由に考え、作り、学べる場づくりににも尽力されています。先生からは「垣根が低く、決定が早く、機動力がある」生研の良さをこれからも生かしてほしいというお言葉とともに、キャンブこまば IV を利用してほしいという熱いメッセージをいただきました。キャンブこまば IV は本所 Dw701、火曜・木曜は午前・午後ともにオープンしています。所内の皆さま、ぜひお越しください！

(広報室 巻 俊宏)